

## 授 業 科 目 一 覧

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態		担当教員	
			必修	選択	講義	演習		
基礎科目	共通科目	社会心理学	1前		1	○		布井雅人
		健康運動学	2前		1		○	多胡陽介
		機能形態学	1・2後		2	○		阿部昌代
		発達心理学	1後		2	○		高橋啓子
		コンサルテーション論	1・2前		2	○		甘佐京子
		看護政策論	1・2前		2	○		木村知子
		研究方法論Ⅰ	1前	2		○		流郷千幸・井之口文月・川嶋元子
		研究方法論Ⅱ	1前	2		○		流郷千幸・木村知子・川嶋元子
		災害看護学	1・2前		2	○		金澤 豊・佐々木裕子
		看護倫理	1前	2		○		城ヶ端初子
		看護理論	1前	2		○		城ヶ端初子
		家族看護学	1・2後		2	○		古株ひろみ・松本修一・泊祐子
		国際看護学	1・2前		2	○		磯邊厚子・角野文彦
		原書講読Ⅰ	1前	1			○	磯邊厚子
		原書講読Ⅱ	1後		1		○	磯邊厚子
		リーダーシップ論	1後	1		○		木村知子・南谷志野
専門科目	看護ケア開発領域	看護ケア開発特論Ⅰ	1前		2	○		磯邊厚子
		看護ケア開発特論Ⅱ	1後		2		○	磯邊厚子
		看護ケア開発特論演習	1後～2前		2		○	磯邊厚子
	看護教育学領域	看護教育学特論Ⅰ	1前		2	○		小山敦代・城ヶ端初子・西山ゆかり
		看護教育学特論Ⅱ	1後		2		○	小山敦代・城ヶ端初子・西山ゆかり
		看護教育学特論演習	1後～2前		2		○	小山敦代・城ヶ端初子・西山ゆかり
	看護管理学領域	看護管理学特論Ⅰ	1前		2	○		木村知子・南谷志野
		看護管理学特論Ⅱ	1後		2		○	木村知子・南谷志野
		看護管理学特論演習	1後～2前		2		○	木村知子
	発達支援看護学領域	発達支援看護学特論Ⅰ	1前		2	○		流郷千幸・平田美紀・磯邊厚子
		発達支援看護学特論Ⅱ	1後		2		○	流郷千幸・平田美紀
		発達支援看護学特論演習	1後～2前		2		○	流郷千幸・平田美紀
	生活支援看護学領域	生活支援看護学特論Ⅰ	1前		2	○		坂田直美・緒方昭子・安田千寿・中島真由美
		生活支援看護学特論Ⅱ	1後		2		○	坂田直美・緒方昭子・安田千寿・中島真由美
		生活支援看護学特論演習	1後～2前		2		○	坂田直美・緒方昭子・安田千寿・中島真由美
地域・精神保健看護学領域	地域・精神保健看護学特論Ⅰ	1前		2	○		間 文彦・安孫子尚子	
	地域・精神保健看護学特論Ⅱ	1後		2		○	間 文彦・安孫子尚子・西垣里志	
	地域・精神保健看護学特論演習	1後～2前		2		○	間 文彦・安孫子尚子・西垣里志	
特別研究	特別研究	2通	8			○	研究科担当教員	
合計 (35科目)		—	18	53	—			

授 業 計 画 (シラバス)			
【 授 業 科 目 名 】	社会心理学		
【 担 当 教 員 名 】	布井雅人		
【開催時期】	1年次前期	【授業形態】	講義
		【必修/選択】	選択
		【単位数】	1単位
<p>■概要 人は高度な社会性を有しており、社会の中で他者と関わり合いながら生活している。そのような社会の中に存在する「こころ」に関する事象を取り上げ、それらに関する研究知見を紹介する。</p> <p>■授業のねらい 我々の日常生活内の様々な場面に存在する疑問を、心理学的観点から捉え、考えることが出来るようになることが本授業のねらいである。</p> <p>■授業の到達目標 「こころ」を考える際には、様々な観点から、様々な可能性に考えを巡らせる必要がある。授業内で扱う知見を参考に、身の周りのこころに対しても、様々な可能性を考えることができ、それらを明らかにするための研究方法を考えることが出来るようになることを目標とする。</p>			
回	授業計画	備考	
1	非言語コミュニケーション（1）表情		
2	非言語コミュニケーション（2）視線・音声		
3	意思決定		
4	利他的行動		
5	集団作業における効率、リーダーシップ		
6	ステレオタイプ、内集団ひいき		
7	文化とこころ		
8	選好		
<p>■成績評価の方法 授業の参加状況、課題レポートにより総合的に評価する。</p> <p>■教科書・テキスト 特に指定しない。</p> <p>■参考書等 授業内で適宜紹介する。</p> <p>■履修上の注意点（履修要件） 特になし。</p> <p>■授業外学習の指示 授業内で紹介する知見を参考に、身の周りに存在する様々なこころについての疑問を挙げていくこと。</p> <p>■オフィスアワー 授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail 対応します。</p> <p>■担当教員からのメッセージ 人が存在するところには、必ず「こころ」が存在します。つまり、こころは我々に最も身近な学問領域と言えます。当然、看護現場にも多くの「こころ」が存在しています。本授業で取り上げる「こころ」も、特別なこころではなく、日常的かつ身近なこころです。なので、みなさんが日常生活や看護現場で感じているこころの疑問についても、取り上げられるものは積極的に授業内で取り上げていきたいと考えています。</p> <p>■担当教員の連絡先 nunoi-m@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

【 授 業 科 目 名 】	健康運動学		
【 担 当 教 員 名 】	多胡陽介		
【開催時期】 2年次前期	【授業形態】 演習	【必修/選択】 選択	【単位数】 1単位
<p>■概要 健康を増進する運動について、科学的に立証された効果的な方法で行わなければ、トレーニング効果が得られず、安全性に問題が出てくる。この授業では、生活習慣病や要介護の原因となる疾病の予防・改善を中心に、科学的知見に基づいたより効果的で安全な健康運動の方法や知識を概説する。</p> <p>■授業のねらい 生活習慣病や要介護の原因となる疾病の予防・改善を中心に、科学的知見に基づいたより効果的で安全な健康運動の方法や知識を理解する。</p> <p>■授業の到達目標 1) 加齢や疾病、生活環境や生活習慣に伴う身体活動量低下がもたらす健康障害について理解する。 2) 心身の健康維持・増進、および生活習慣病や要介護の原因となる疾病の予防・改善として安全で有効な運動処方と運動指導の理論を理解し、実践力と応用力を修得する。</p>			
回	授業計画	備考	
1	リエンテーション (ねらい、評価等)、健康寿命の延伸と運動実践、体力とは		
2	メンタルヘルスと運動		
3	体操・ストレッチングの方法と計画① (ストレッチングの種類と特性)		
4	体操・ストレッチングの方法と計画② (肩こりや腰痛への対応)		
5	生活習慣病と運動・身体活動の効果・目標値		
6	有酸素性運動の方法と計画① (種目の選択、心拍数の活用など)		
7	有酸素性運動の方法と計画② (インターバル・ウォーキングの効果)		
8	ロコモティブ・シンドロームの概念とその予防、骨粗鬆症と運動の効果		
9	レジスタンス運動の方法と計画① (種目の選択、RMなど)		
10	レジスタンス運動の方法と計画② (地域における実践例)		
11	認知症予防と運動① (有酸素性運動とレジスタンス運動による効果)		
12	認知症予防と運動② (二重課題運動の可能性)		
13	子どもの体力低下と運動遊び		
14	レクリエーションやニュースポーツの活用		
15	授業全体の振り返り・まとめ		
<p>■成績評価の方法 期末レポート (70%)、平常点「小レポート、実技技能」 (30%)</p> <p>■教科書・テキスト 授業中に配布</p> <p>■参考書等 健康・運動の科学：田口貞義、文光堂、高齢者向け運動指導：日本フィットネス協会</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件) 講義とともに運動を伴う演習を行います。</p> <p>■授業外学習の指示 日頃より運動やスポーツ、身体活動のエビデンスを収集しておくこと</p> <p>■オフィスアワー 金曜日以外の平日および授業の担当時間外</p> <p>■担当教員からのメッセージ 健康寿命を延ばし、生活習慣病などを予防するための効果的な運動方法について学び考え、地域の健康づくりに貢献していきましょう。</p> <p>■担当教員の連絡先 tago-y@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	機能形態学 (2020 年度開講)		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	阿部昌代		
<b>【開催時期】</b> 1・2 年次後期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 選択	<b>【単位数】</b> 2 単位
<p><b>■概要</b>                      日常生活は多様な動作や運動により支えられているが、運動系に支障が生じると普通の生活が著しく損なわれる。このような事態を避けること、また支障が生じたとしても、本来の日常生活に速やかに戻ることが肝要とされる。したがって運動系に関わる障害の予防や看護には、運動系の構造と機能についての十分な知識を持ち、新たな研究も必要とされる。</p> <p>この講義では動作・運動と深く関わる四肢と体軸の骨格・関節構造、また筋と関節の相互作用について、解剖学、運動学、運動力学、運動工学などの視点から考究し、この分野を通じて看護実践の向上や看護学の発展に貢献できる人材の育成を目指す。</p>			
<p><b>■授業のねらい</b>                      テキスト、参考書を中心に、講義、討論、発表などを行い、身体の構造と機能を、関節に基盤をおいて基礎的理解を深め、当該する研究論文にも接し、その上で最新のロボットやパワースーツなど応用面の理解にもつなげる。</p>			
<p><b>■授業の到達目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脊柱、四肢の構造と機能についての機能形態学的問題を意欲的、論理的、実践的に考究できる。</li> <li>2. 歩行の動態を運動学、バイオメカニクス、運動工学などの視点から考究でき、転倒や骨折の予防・防止の方策を理論的、実験的に考究できる。</li> </ol>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	日常生活における多様な動作と運動		
2	身体の動作・運動と運動系の関連		
3	運動学と運動力学		
4	運動分析の方法		
5	関節の基本構造と機能、および身体の力源としての筋		
6	上肢の関節構造、筋と関節の相互作用 1 肩の複合体		
7	上肢の関節構造、筋と関節の相互作用 2 肘・前腕・手の複合体、中手と指節複合体		
8	体軸骨格の骨・関節構造と局所的運動学		
9	体軸骨格の筋と関節の相互作用		
10	下肢の関節構造、筋・関節の相互作用 1 股関節と膝関節		
11	下肢の関節構造、筋・関節の相互作用 2 足関節と足根・中足・趾骨複合体		
12	歩行の運動学		
13	歩行のバイオメカニクス		
14	パワースーツやロボットの援用		
15	転倒・骨折の予防方法		
<p><b>■成績評価の方法</b>                      授業参加状況、課題レポート、発表により総合的に評価する。</p>			
<p><b>■教科書・テキスト</b>                      嶋田 智明、平田総一郎訳、D. ニューマン著「筋骨格系のキネシオロジー」医歯薬出版、2005、ISBN4-263-21287-8</p>			
<p><b>■参考書等</b>                      金子公有、福永哲夫著「バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎—」杏林書院、2006、ISBN4-7644-1069-9</p>			
<p><b>■履修上の注意点 (履修要件)</b>                      なし</p>			
<p><b>■授業外学習の指示</b>                      講義に対する予習と復習、それに出題された課題を専門学雑誌なども参考にしてみとめ。また、リハビリテーションセンターなどを見学し、動作と運動分析の実際を見ることなどに授業外学習として約 60 時間以上を充てることが望まれる。</p>			
<p><b>■オフィスアワー</b>                      授業前後にて対応</p>			
<p><b>■担当教員からのメッセージ</b>                      広く関心を持ち、最も興味を抱いたテーマは、深く掘り下げるのが肝要かと思われます。</p>			
<p><b>■担当教員の連絡先</b>                      lect470z@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	発達心理学		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	高橋啓子		
<b>【開催時期】</b> 1年次後期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 選択	<b>【単位数】</b> 2単位

**■概要**

人の胎児期から死に至るまでの生涯を、発達とはなにか、発達課題とはなにかというテーマを基本におきながら生得的個人差、多様な社会環境との関係、臨床心理などの視点や角度から学修する。

**■授業のねらい**

①出生前発達と新生児の発達経過を理解する②乳幼児期と児童期の発達課題を理解する③青年期の発達の連続性と段階性を再考し理解する④成人期の安定性と変化について理解する⑤個の変化と環境(社会)の影響について考察する。

**■授業の到達目標**

人生のスタートとしての乳幼児期には、知覚・記憶・言語の獲得などの発達課題の中に、個人の心の基本的な特徴や人との関係性から発展的に獲得していく傾向など大きな示唆に富んでいる。年代をたどりながら、発達の病理とはなにかを社会の現状や支援リソースを学びながら、「心理学」という領域から人間の「生涯発達」について自分の考えをまとめる。

回	授業計画	備考 (担当教員)
1	発達の基礎 発達心理学の論点	
2	出生前発達と新生児	
3	乳幼児期 ①身体的発達	
4	乳幼児期 ②ピアジェの理論と現在の考え方	
5	乳幼児期 ③環境要因としての家族・地域	
6	児童期の発達 集団・学習	
7	発達障害とは ①基本的な理解	
8	発達障害とは ②知能とは何か 検査方法	
9	思春期の発達と臨床 愛着障害とは	
10	成人期の発達 ①前期 アイデンティティの形成	
11	成人期の発達 ②中期 個人差と社会	
12	発達の病理 パーソナリティ障害とは 心理臨床における支援	
13	中・高齢期における家族の変容と適応	
14	中・高齢期のメンタルヘルスと環境	
15	カウンセリングと心理療法～こころの健康とはなにか～	

**■成績評価の方法**

授業参加状況 プレゼンテーション 研究レポート

**■教科書・テキスト**

プリント対応

**■参考書等**

「実験で学ぶ発達心理学」等適宜紹介する。「マイヤーズ心理学」西村書店

**■履修上の注意点 (履修要件)**

教科書で当日授業予定部分までを予習しておくこと。

**■授業外学習の指示**

参考図書と視聴覚教材を指定。授業外に学習しておくこと。

**■オフィスアワー**

毎週木曜日午後 1~5 個人研究室

**■担当教員からのメッセージ**

社会の現状に目を向けること、個人の発達と環境の影響、社会支援のあり方なども学習し立体的な「発達とは何か」の命題に取り組むことは、自分と向き合うこと、今後の自分の形を模索することです。

**■担当教員の連絡先**

takaha-k@seisen.ac.jp

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	コンサルテーション論 (2020 年度開講)		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	甘佐京子		
<b>【開催時期】</b> 1・2 年次前期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 選択	<b>【単位数】</b> 2 単位
<p>■概要                      コンサルテーションの定義、目的、タイプ、プロセス、評価方法及び有用な相談プロセスが共有展開できるための方法論等を論じ、医療の対象者及び専門職が直面する課題や困難・問題に対処するための基礎能力を養う。</p> <p>■授業のねらい                      対人関係を基盤とする専門職者として、コンサルテーションの基本的原則や実践方法を身につけることが、職業上の能力拡大に必ずつながる。普段おこなっている様々な相談業務にも、理論的な背景がありそれをシステム化していくことで、看護の専門性をより高めていくことをねらいとする。</p> <p>■授業の到達目標                      1. コンサルテーションの定義、目的・プロセスについて理解できる。                      2. 医療の対象者及び専門職に対するコンサルテーションの基本的な実践能力を身につける。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	コンサルテーションの概念		
2	援助関係における心理力動		
3	積極的質問と聞き取り		
4	コンサルテーションにおけるクライアントの概念		
5	コンサルテーションのプロセス①		
6	コンサルテーションのプロセス②		
7	コンサルテーションにおける介入①		
8	コンサルテーションにおける介入②		
9	コンサルテーションにおける介入③		
10	コンサルテーションにおける介入④		
11	コンサルテーションの実際(事例検討)		
12	コンサルテーションの実際(事例検討)		
13	コンサルテーションの実際(事例検討)		
14	看護コンサルテーションの課題(グループワーク)		
15	看護コンサルテーションの課題(グループワーク)		
<p>■成績評価の方法                      レポートおよび参加状況から評価する。</p> <p>■教科書・テキスト                      E. H. Schein 「プロセス・コンサルテーション」 白桃書房</p> <p>■参考書等                      宮本真巳 「感性を磨く技法4 面接技法から学ぶ」 日本看護協会出版会                      信田さよ子 「アディクションアプローチ」</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件)                      特になし</p> <p>■授業外学習の指示                      テキストを基に、担当を決めてプレゼンテーションを実施。それに先駆けて文献検索や資料作成をしておくこと。また、担当者以外も必ず予習を行い質問等の準備をしておくこと。</p> <p>■オフィスアワー                      授業前後に対応</p> <p>■担当教員からのメッセージ                      コンサルテーションは対人関係を伴う職種に従事する者には必要な知識です。この講義で身につけた知識・技術は、必ず皆さんのこれからの役に立つと確信しています。</p> <p>■担当教員の連絡先                      amasa.k@nurse.usp.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	看護政策論 (2019 年度開講)		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	木村知子		
<b>【開催時期】</b> 1・2 年次前期	<b>【授業形態】</b> 講義 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択	<b>【単位数】</b> 2 単位

**■概要**

保健医療福祉の動向を踏まえ、政策と政策決定プロセスについて概説する。特に看護制度と関連する政策課題について、看護行政における政策活動や政策的な働きかけの方法を具体的に説明する。

さらに議員活動の実際について、特別講師より概説する。

看護サービスに関する将来設計、看護職の政策的役割を探究する。

**■授業のねらい**

近年における保健医療福祉の動向を理解すること、政策と政策決定プロセスに関する基本的行動を理解することは、看護管理者として重要である。

看護を提供するにあたって、看護職の政策的役割を探究することで、看護についての視野を広げる。

**■授業の到達目標**

1. 保健医療福祉の動向と看護政策の動向と課題について理解できる。
2. 看護における政策決定プロセスを理解できる。
3. 看護行政と職能団体の活動や実際、課題が理解できる。
4. 自身の立場から看護政策への提言ができる。

回	授業計画	備考 (担当教員)
1	医療政策・看護政策とは	木村知子
2	看護関連諸法	木村知子
3・4	政策過程・決定プロセス	木村知子
5・6	これまでの看護政策過程をみつめる (学生のプレゼンテーション)	木村知子
7・8	看護行政の実際 (滋賀県健康医療福祉部)	特別講師
9.10	議員活動 (滋賀県議会議員)	特別講師
11.12	看護政策活動の実際	特別講師 (予定)
13.14	各自の立場から政策提言を考える (学生のプレゼンテーション)	木村知子
15	まとめ	木村知子

**■成績評価の方法**

授業でのディスカッション、プレゼンテーション、レポート課題から総合的に評価する。

**■教科書・テキスト**

見藤隆子、石田 昌宏、大串正樹、北浦 暁子、伊勢田 暁子：看護職者のための政策過程入門  
日本看護協会出版会 2007

**■参考書等**

野村陽子：看護制度と政策、法政大学出版局 2015  
他適宜紹介する。

**■履修上の注意点 (履修要件)**

隔年開講となるために、2020 年度は開講しません。また特別講師の授業日程は調整中です。

**■授業外学習の指示**

各自の立場から、政策として提言できることを理論立てて準備して下さい。

**■オフィスアワー**

木曜日 17 時以降

**■担当教員からのメッセージ**

看護が政策的な役割を果たしていることを認識し、看護サービスを提供する立場からの提言を期待します。

**■担当教員の連絡先**

kimura-t@seisen.ac.jp.

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	研究方法論 I		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	流郷千幸 井之口文月、川嶋元子		
<b>【開催時期】</b> 1年次前期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 必修	<b>【単位数】</b> 2単位
<p><b>■概要</b>                      (概要) 看護における研究の意義と役割を理解し、研究における理論、概念枠組み、研究デザイン、文献クリティーク、研究方法について理解を深め、さらに研究計画、研究倫理、論文作成など研究プロセスについて理解する。また研究に必要な情報処理技術を身につける。(流郷/11回)                      看護研究の動向、理論、概念枠組み、研究デザイン及び研究方法の特徴などを学修し、論文クリティークに必要な能力や論文作成に必要な基礎的能力を身につける。(井之口/1回、川嶋元子3回)                      授業は演習、プレゼンテーション、ディスカッションで行うため、事前学習が重要である。</p> <p><b>■授業のねらい</b>                      研究の意義、方法論、研究プロセスなど論文作成に必要な基礎的能力を身につける。</p> <p><b>■授業の到達目標</b>                      ①看護における研究の意義と役割を理解する。                      ②論文作成のプロセスを理解する。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	授業の進め方、研究テーマの確認 ※テキストを用いて各章ごとに内容をまとめプレゼンする	流郷千幸	
2	看護研究の意義・動向 看護研究における理論・概念枠組み ※テキストを用いて各章ごとに内容をまとめプレゼンする	流郷千幸	
3			
4			
5	研究デザインと研究方法 ※テキストを用いて各章ごとに内容をまとめプレゼンする	流郷千幸	
6	文献検討①～③ ※各自の関心テーマから文献を持ち寄り、クリティークを行う	流郷千幸	
7			
8			
9	研究に必要な倫理的配慮・研究計画書の書き方 ※研究における倫理的配慮、計画書の書き方について説明し、合わせて本学の倫理審査の説明を行う	流郷千幸	
10			
11	研究に必要な情報処理① ※模擬データを用いて、データ処理を行い、そのデータから読み取った内容を図表にまとめプレゼンする	井之口文月	
12	研究に必要な情報処理②～④ (キャリアアップ講座に出席) ※模擬データを用いて、データ処理を行い、そのデータから読み取った内容を図表にまとめプレゼンする	川嶋元子	
13			
14			
15	発表・まとめ ※模擬データを用いて、データ処理を行い、そのデータから読み取った内容を図表にまとめプレゼンする	流郷千幸	
<p><b>■成績評価の方法</b>                      授業への参加状況(発表、資料、討議への参加状況)、レポートから総合的に評価する。</p> <p><b>■教科書・テキスト</b>                      看護研究 第2版—原理と方法 D.F.ポーリット(著)、近藤潤子(翻訳)</p> <p><b>■参考書等</b> 適宜紹介する。</p> <p><b>■履修上の注意点(履修要件)</b>                      事前課題(適宜指示)に取り組んで授業に臨んで下さい。</p> <p><b>■授業外学習の指示</b> 授業ごとに指示する。</p> <p><b>■オフィスアワー</b> 授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail 対応します。</p> <p><b>■担当教員からのメッセージ</b>                      研究の基礎を学び、修士論文のテーマを考えていきましょう。</p> <p><b>■担当教員の連絡先</b>                      ryuugo-c@seisen.ac.jp</p>			



## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	研究方法論Ⅱ		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	流郷千幸、木村知子、鈴木美佐		
<b>【開催時期】</b> 1年次後期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 必修	<b>【単位数】</b> 2単位
<p>■概要                      (概要) 研究方法論Ⅰを踏まえ、看護実践の発展に貢献する研究方法論を学び、自己の研究テーマを推進するための基盤を作るとともに、今後の研究活動に活用できることを目標とする。                      (木村/6回) 質的研究の概念、研究手法について学修する。                      (鈴木/3回、流郷千幸/6回) 量的研究の概念、研究手法について学修する。                      授業は演習、プレゼンテーション、ディスカッションで行うため、事前学習が重要である。</p> <p>■授業のねらい                      質的研究、量的研究の手法とプロセスを理解する。</p> <p>■授業の到達目標                      ①質的研究の手法、プロセスを理解する。                      ②量的研究の手法、プロセスを理解する。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	質的研究の手法①② ※様々な質的研究方法について既存研究の紹介、クリティークを行いながら理解を深め、	木村知子	
2	データ収集、データ分析については演習を行う		
3	データ収集方法(面接、逐語記録、参加観察、フィールドノート)・分析方法・結果と考察 ※様々な質的研究方法について既存研究の紹介、クリティークを行いながら理解を深め、 データ収集、データ分析については演習を行う	木村知子	
4			
5			
6			
7	量的研究の手法・データ収集・分析方法 ※様々な量的研究方法について既存研究の紹介、クリティークを行いながら理解を深め、	流郷千幸	
8	データ収集、データ分析については演習を行う		
9	質問紙調査 ※様々な量的研究方法について既存研究の紹介、クリティークを行いながら理解を深め、	流郷千幸	
10	データ収集、データ分析については演習を行う		
11	実験研究 ※様々な量的研究方法について既存研究の紹介、クリティークを行いながら理解を深め、	流郷千幸	
12	データ収集、データ分析については演習を行う		
13	パラメトリック検定(キャリアジャンプ講座に出席) ※量的研究を行う際に必要な統計処理の方法を演習を通して学ぶ	鈴木美佐	
14	ノンパラメトリック検定(キャリアジャンプ講座に出席) ※量的研究を行う際に必要な統計処理の方法を演習を通して学ぶ	鈴木美佐	
15	量的研究における結果、図表の表し方(キャリアジャンプ講座に出席) ※量的研究を行う際に必要な統計処理の方法を演習を通して学ぶ	鈴木美佐	
<p>■成績評価の方法                      授業への参加状況、レポートなどから総合的に判断する。授業への参加状況(発表、資料、討議への参加状況)、レポートから総合的に評価する。</p> <p>■教科書・テキスト                      無し</p> <p>■参考書等                      適宜紹介する。</p> <p>■履修上の注意点(履修要件)                      事前課題(適宜指示)に取り組んで授業に臨んで下さい。</p> <p>■授業外学習の指示                      授業ごとに指示する。</p> <p>■オフィスアワー                      授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail 対応します。</p> <p>■担当教員からのメッセージ                      研究方法を学び、修士論文のテーマ、方法などを明確にしていきましょう。</p> <p>■担当教員の連絡先                      ryuugo-c@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	災害看護学 (2020 年度開講)		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	金澤 豊、佐々木裕子		
<b>【開催時期】</b> 1・2 年次前期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 選択	<b>【単位数】</b> 2 単位

■概要

国内外の災害動向、救護活動の実際について学ぶ。災害に対する知識と災害が人々の健康や生活に与える影響と災害看護の対象である被災者の健康問題と、フェーズに応じた災害時救急医療・看護、心のケア、災害時保健指導について学修する。(オムニバス方式)

(金澤 豊)

災害の定義と種類、被災者のこころの変化、災害サイクルによる支援活動の変化とその支援について理解する。  
(非常勤講師)

災害発生時の医療、看護、要援護者のトリアージについて理解する。

■授業のねらい

災害の理解や災害看護に必要な知識、理論、技術の修得を目指す。

■授業の到達目標

1. 災害の特徴や人々の生活、環境に与える影響が理解できる。
2. 災害看護の対象者である被災者の特徴、災害看護の役割、課題が理解できる。

回	授業計画	備考 (担当教員)
1	災害の定義と種類	金澤 豊
2	近年の災害発生と被災状況	金澤 豊
3	災害の規模、時期、地域による特徴	金澤 豊
4	災害と被災者のこころの変化	金澤 豊
5	災害サイクルによる支援活動の変化	金澤 豊
6	災害看護の実際	金澤 豊
7・8	防災計画	金澤 豊
9	災害医療 災害看護	金澤 豊
10～12	災害時要配慮者のトリアージ	佐々木裕子
13	災害時要配慮者と現地支援者の支援	佐々木裕子
14・15	障害を持った人、高齢者への対応	佐々木裕子

■履修条件

特になし

■成績評価の方法・基準

課題レポート 50%、プレゼンテーション 30%、討論への参加態度 20%

■教科書・テキスト

適宜指示する

■参考書等

適宜指示する

■授業外学習の指示

各所属先の災害マニュアルおよび在住する地域防災計画について学習し、課題報告を求める。

■オフィスアワー

授業の前後

■担当教員からのメッセージ

主体的に参加すること

■担当教員の連絡先

講義開始時に周知する

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	看護倫理		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	城ヶ端初子		
<b>【開催時期】</b> 1年次前期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 必修	<b>【単位数】</b> 2単位

### ■授業の概要

現代の保健医療の中で、看護専門職としての看護活動の場で、遭遇するさまざまな倫理的問題やジレンマの解決方法を探求する。これを果たすために、個人の尊重を基礎に、生命倫理、医療倫理、看護倫理の基礎的な知識を学び、専門職者としての規律や責務を守り、看護援助者としての倫理的な支援のあり方を修得する。

### ■授業のねらい

看護場面においては、倫理的問題も多々あり、看護職は専門職として、その問題を発見し解決方法をさぐり、具体的な行動につながる能力が期待されている。また、看護研究の実践能力も求められている。そこで本稿では、看護職として倫理的問題に対応できる方法論および看護研究における倫理についての知識・技術を身につけることを学習のねらいとする。

### ■授業の到達目標

学生のもつ関心のある倫理的課題について、倫理の原則や倫理的意思決定モデルを用いて課題の所在を明確にし、課題の対応を考えることができる。

### ■授業スケジュール

回	授業計画	備考
1	オリエンテーション 看護倫理についての基礎知識の整理(課題レポート 1) シラバスを事前に読む、看護倫理にかかわる身近な出来事をまとめておく	
2	看護倫理へのアプローチ 「徳」の倫理、原則の原理を日常の生活や看護業務の中から抽出し整理しておく	
3	臨床にあるジレンマと看護倫理 倫理的判断と看護原則 看護におけるジレンマについて整理しておく (体験例を含む)	
4	看護情報と守秘義務 インフォームドコンセントと看護者の役割 看護情報とは何か、守秘義務とは何か、その概念を整理しておく	
5	さまざまな看護活動と倫理 看護倫理に関係する重要な用語を整理し、臨床で経験した科における倫理を整理しておく	
6	看護専門職組織の役割と倫理綱領(課題レポート 2) 日本看護協会の「看護者の倫理綱領」について予習しておく	
7	看護実践における倫理的知識の活用 (ディスカッションを含む) 臨床での倫理的問題のある場面を体験から取りあげ整理しておく	
8	倫理的意思決定とそのステップ 倫理的ジレンマに直面した時の解決方法を段階的に考える方策を考えておく	
9	看護倫理問題解決モデル(1) 問題解決法について整理しておく	
10	看護倫理問題解決モデル(2) さまざまな問題を倫理モデルを活用して解決する具体的な方法を整理しておく	
11・12	プレゼンテーション「臨床における倫理的問題の解決法」(事例) (課題レポート 3) 臨床で体験した倫理的問題のある事例をまとめ発表の準備をする	
13	看護研究における倫理(1) 研究不正に関する新聞ニュースを収集し整理しておく	
14	看護研究における倫理(2)	
15	まとめ (最終レポート 4)	

### ■成績評価の方法・基準

課題レポート 20%、プレゼンテーション 40%、最終レポート 20%、授業への参加度 20%

### ■教科書・テキスト

城ヶ端初子編著「実践に生かす看護倫理」久美出版、2015 その他、必要時、参考文献を提示する。

### ■参考書等

サラ T クライ他 牛田範子他訳「看護実践の倫理」日本看護協会出版会 2007 黒木登志夫「研究不正」中公新書、2016

### ■授業外学習の指示

身近な事例を看護倫理につなげて考察する。

### ■オフィスアワー

木曜日 3 時限 (12:10~14:30) 研究室

### ■担当教員の連絡先

城ヶ端初子 E-mail jougah-h@seisen.ac.jp

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	看護理論		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	城ヶ端初子		
<b>【開催時期】</b> 1年次前期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 必修	<b>【単位数】</b> 2単位

**■授業の概要**

国内外における看護理論や関連する理論の概要を学び、また、理論と看護現象との関係について把握し、これからの理論の発展や理論構築方法について探求する。看護理論の概念と発展過程をふまえ、国内外の代表的な理論家による理論について概観し、理論の特徴を理解し、臨床への活用方法を知る。

さらに、現在活用されている理論を把握し、プレゼンテーションできる力を養う。

**■授業のねらい**

看護理論は看護実践の基盤となる重要な部分である。しかし、臨床では敬遠される傾向にある。この状況から本講では、自己の看護実践を振りかえり、看護観を見つめなおすことを学習のスタートとする。さらに国内外の主な看護理論を把握し、実践における活用方法を探究することを学習のねらいとする。

**■授業の到達目標**

1. 看護の変遷を通して看護理論の発展過程を知る。
2. 国外の看護理論家の理論を探求し、全体像を把握する。
3. 国内の看護理論家の理論を探求し、全体像を把握する。
4. プレゼンテーションが実施できる。
5. 看護理論構築の方法を知る。

**■授業スケジュール**

回	授業計画	備考
1	オリエンテーション 看護理論とは何か？(課題レポート 1)シラバスを事前に読む、自己の看護観をまとめ提出する	
2	看護理論の発展過程 看護理論の発展過程の概要をテキストで読み整理しておく	
3	看護哲学 ナイチンゲール看護理論(1) ナイチンゲールの生きた時代背景を整理しておく	
4	看護哲学 ナイチンゲール看護理論(2) 「看護覚え書」を事前に読み概要を整理しておく	
5	国外の看護理論家の理論を把握する(1) ニード論 ヘンダーソン ニードとは何か、概念を整理しておく	
6	国外の看護理論家の理論を把握する(2) 人間関係論 トラベルビー 人間関係とは何か、概念を整理しておく	
7	国外の看護理論家の理論を把握する(3) システム論 ロイ 「適応」の概念を整理しておく	
8	国外の看護理論家の理論を把握する(4) ケア・ケアリング論レイニンガー 「ケア」「ケアリング」とは何か、概念について整理しておく	
9	国外の看護理論家の理論を把握する(5) ローパー・ローガン・ティアニー看護理論 イギリスで生まれた看護理論とアメリカで発展した理論を比較してみる	
10	国内の看護理論家の理論を把握する(1) わが国の初期の看護の定義 わが国の看護の定義、理論のはじまりを整理しておく	
11	国内の看護理論家の理論を把握する(2) 科学的看護論 薄井坦子 人間の認識とは何か概念を整理しておく	
12・13	プレゼンテーション (課題レポート 2) 自己の選択した看護理論を整理まとめプレゼンの準備をする	
14	看護理論構築の試み 理論構築、理論開発等について概要を整理する	
15	まとめ (最終レポート3)	

**■成績評価の方法・基準**

課題レポート 20%、プレゼンテーション 40%、最終レポート 20%、授業への参加度 20%

**■教科書・テキスト**

城ヶ端初子編著「実践に生かす看護理論」サイオ出版 2013

その他、必要時、参考文献を提示する。

**■参考書等**

1. 筒井真優美編著「看護理論家の業績と理論評価」医学書院 2015
2. Lorrain Olszewski Walker 他、中木高夫・川崎修一訳「看護における理論構築の方法」医学書院 2008

**■授業外学習の指示**

自分の看護観をまとめ、各々の看護理論が実践にどのように反映できたか考察する。

**■オフィスアワー**

木曜日 3 時限 (12:10~14:30)

**■担当教員の連絡先** 城ヶ端初子 E-mail jougah-h@seisen.ac.jp

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	家族看護学 (2019 年度開講)		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	古株ひろみ、松本修一、泊祐子		
<b>【開催時期】</b> 1・2 年次後期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 選択	<b>【単位数】</b> 2 単位

**■概要**

日本における家族を取り巻く社会の変動を理解し、家族員各々が成長するプロセスについて家族発達段階を踏まえてアセスメントできる能力を養う。そのため家族の状況を包括的にアセスメントする家族発達段階論、家族機能論諸理論を学ぶ。健康問題をもつ家族員がいる家族への看護過程の展開方法を家族アセスメント介入モデルを用いて教授する。(オムニバス方式)

(古株ひろみ)

家族の変貌を家族形態、構成、人口構造、出生数等から検討し、家族が置かれている社会状況を理解する。家族諸理論(家族システム論、家族の発達段階論、家族ストレス論等)について概説し、家族を包括的にアセスメントできる知識を学ぶ。

(松本修一)

家族の一員が健康問題を抱えることで状況的・発達の危機に直面している家族において、今までに経験した事例を通して『家族看護の果たす役割・機能とは何か』について理解し、家族看護理論を用いた看護介入について学修する。

**■授業のねらい**

自己の看護観や家族観を再認識するとともに、家族におこっている現象を社会の変化を踏まえながら、家族に関する諸理論を活用し、アセスメントする能力を養う。

**■授業の到達目標**

1. 家族看護学の理論について理解する。
2. 対象者のアセスメント、目標、看護過程、評価について理解し、家族看護実践の研究に活用ができる。

回	授業計画	備考 (担当教員)
1・2	オリエンテーション、家族看護学の目的、役割、家族という集団の特徴	泊祐子
3・4	家族の発達とシステムとしての家族	泊祐子
5・6	家族アセスメントモデル	古株ひろみ
7	家族と地域社会・文化的背景	古株ひろみ
8・9	家族看護過程 『渡辺式家族アセスメント/支援モデルについて』	松本修一
10・11	家族看護過程(1)演習	松本修一
12・13	家族看護過程(2)演習	松本修一
14・15	家族看護過程(3)演習、まとめ	松本修一

**■成績評価の方法**

課題レポート 50%、プレゼンテーション 30%、討論への参加態度 20%

**■教科書・テキスト**

山崎あけみ、原礼子編「家族看護学」19の臨床場面と8つの実践事例から考える 南山堂  
 家族アセスメントに基づいた家族像の形成「家族看護」日本看護協会出版会 Vol. 22, No. 2, 2004

**■参考書等**

森山美智子編「ファミリーナーシングプラクティス 家族看護の理論と実践」 医学書院  
 柳原清子、渡辺裕子編 渡辺式家族アセスメント/支援モデルによる困った場面課題解決シート 医学書院

**■履修上の注意点 (履修要件)**

特になし

**■授業外学習の指示**

都度指示

**■オフィスアワー**

授業前後

**■担当教員からのメッセージ**

臨床では、疾患などの原因を捉える時、患者・家族、患者・医療者、家族・医療者といった関係性を捉える時など分析対象によってものの捉え方を使いわけることが必要があるように思います。家族をアセスメントするうえでは、円環的思考というものの捉え方が重要であり、演習の中で一緒に学んでいきたいと思っています。(松本修一)

**■担当教員の連絡先**

松本修一 kyoumu@seisen.ac.jp (教務課) 古株ひろみ lect446u@seisen.ac.jp

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	国際看護学 (2019 年度開講)		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	磯邊厚子、角野文彦		
<b>【開催時期】</b> 1・2 年次前期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 選択	<b>【単位数】</b> 2 単位
<p>■概要            昨今、国際保健からグローバル・ヘルスの考え方に移行しつつ、国際看護はグローバル看護と捉え考察する(オムニバス方式)。グローバルな視野で人々の健康問題を捉え、ローカルかつ多様な方法で看護を探究する(磯邊厚子)。国際協力の観点から、理念と概要及びJICAでの活動について学ぶ(角野文彦)。</p> <p>■授業のねらい            グローバルナースの意義、必要性、在日外国人医療の課題など、グローバルナースのあり方を討議する。</p> <p>■授業の到達目標            グローバル・ヘルスの視点で人々の生活や健康を捉え、人々の健康問題への対応として調整力や貢献力を学修する。保健制度や政策、健康水準、文化・習慣などを抱合したグローバル看護の展開方法を学修する。グループワークを取り入れる。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	人間の安全保障とプレミアム目標 SDGs2016-2030の意味するもの — 看護になぜ国際的視点が必要か	磯邊厚子	
2	グローバル・ヘルス・イシュー、国際保健からグローバル・ヘルスへの移行 グローバルナースとは何か ※世界の国別保健指標などをみておく。医療・健康問題を人間開発報告書から調べておく。	磯邊厚子	
3	日本で、世界で何が起きているのか、 日本を含めた世界で行われるグローバル・ヘルス、グローバル看護とは	磯邊厚子	
4	グローバル看護の変遷と目指す方向性	磯邊厚子	
5	グローバル看護の実際と課題 (医療文化の違い、生活習慣の違いなど)	磯邊厚子	
6	国際協力とは 国際協力の理念と概要 ※関連文献をみておく。	角野文彦	
7・8	世界規模で発生する感染症及び対策を学ぶ 開発途上国の人々の健康問題と対策	角野文彦	
9・10	海外での医療活動、アフリカの事例から JICA ケニアでの国際協力活動	角野文彦	
11	貧困・女性・リプロダクティブ・ヘルスの課題への対応 スリランカでの研究調査	磯邊厚子	
12	外国人は特別ではない在日外国人、在外日本人の医療、看護、外国人看護師の受け入れと課題	磯邊厚子	
13	日常もしくは非日常に対応するグローバル看護の実践 国内外の災害、難民、看護、我々に求められる役割とは	磯邊厚子	
14	事例検討：グループワーク 途上国の母子保健の課題へのグループワークを行う。	磯邊厚子	
15	事例グループ発表 総括 グループワークでの発表、意見交換を行う。	磯邊厚子	
<p>■成績評価の方法            授業への参加、グループワーク、プレゼンテーション、事例演習から評価します。</p> <p>■教科書・テキスト            適宜プリント配布します。</p> <p>■参考書等            UNDP 国連開発計画 人間開発報告書, Nursing in the World, 国際看護学-グローバル・ナースの展開 ISBN978-4-521-73912-0 等 適宜紹介します。</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件) 国際的な情報や文献に興味をもち、積極的な授業参加に努めます。</p> <p>■授業外学習の指示 適宜提示します。</p> <p>■オフィスアワー 授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail 対応します。</p> <p>■担当教員からのメッセージ 地球規模の健康問題、世界の看護教育に対する幅広い視点と看護活動を学びます。</p> <p>■担当教員の連絡先 isobe-a@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	原書講読 I		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	磯邊厚子		
<b>【開催時期】</b> 1年次前期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 必修	<b>【単位数】</b> 1単位
<p>■概要 海外の医療や看護、各専門領域におけるトピックス、看護実践に役立つ看護理論の文献を読み解く。</p> <p>■授業のねらい ナイチンゲール著の「NOTES ON NURSING-WHAT IT IS, AND WHAT IT IS NOT」の書かれた時代や背景を知るとともに、ナイチンゲールの思想、看護観、看護の定義、看護の本質を追及、深化させる。</p> <p>■授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1章から第10章までを各自が選択し、担当した章を可能な範囲で和訳する。</li> <li>2. 看護理論から看護の専門性、看護独自の機能をとらえていく。</li> <li>3. 学生同士でディスカッションを行い、現代看護に生かすべく理論的視野を広げる。</li> </ol>			
回	授業計画	備考	
1	オリエンテーション 海外雑誌の紹介、Medline の活用 ※本学図書館にある海外雑誌の紹介を行い、専門領域の知見を広げる。		
2	ナイチンゲール看護論「NOTES ON NURSING」 前書き ※序文 PREFACE、Introductory から導入する。 ※各章の担当を学生同士で決めるが、(担当だけでなく)全員が予習しておく。		
3	ナイチンゲール看護論「NOTES ON NURSING」 1-2章 ※I-Ventilation and Warming, II-Health of Houses を訳しながら、学生同士で内容の意味を共有化しながら進める。		
4	ナイチンゲール看護論「NOTES ON NURSING」 3-4章 ※III-Petty Management, IV-Noise		
5	ナイチンゲール看護論「NOTES ON NURSING」 5-6章 ※V-Variety, VI-Taking food		
6	ナイチンゲール看護論「NOTES ON NURSING」 7-8章 ※VII-What Food, VIII-Bed and Bedding		
7	ナイチンゲール看護論「NOTES ON NURSING」 9-10章 ※IX-Light, X-Cleanliness of Rooms and Walls		
8	まとめ ※文献から得られた内容と各自の研究テーマの関連性について発表する。		
<p>■成績評価の方法 平常点 (100%) 授業への参加状況から総合的に評価します。</p> <p>■教科書・テキスト 「NOTES ON NURSING-WHAT IT IS, AND WHAT IT IS NOT」 Florence Nightingale, Cambridge University Press. ISBN978-1-108-02061-9. (本学図書館に所蔵)</p> <p>■参考書等 適宜紹介します。</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件) なし</p> <p>■授業外学習の指示 ナイチンゲール看護論の各自担当した章の内容の要約、単語調べをして、授業に臨みます。</p> <p>■オフィスアワー 授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail 対応します。</p> <p>■担当教員からのメッセージ 辞書を用意し、課題について予習して参加します。</p> <p>■担当教員の連絡先: mail ; isobe-a@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	原書講読Ⅱ		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	磯邊厚子		
<b>【開催時期】</b> 1年次後期	<b>【授業形態】</b> 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択	<b>【単位数】</b> 1単位
<p>■概要 海外の看護の専門雑誌を読み、英語論文の構成要素を学ぶと共に、購読する能力を養う。</p> <p>■授業のねらい American Journal of Nursing 2015 Aug p22-32, Original Research, 'I am a Nurse':Oral Histories of African Nurses の講読を行い、自己の研究に関連させて学ぶ。</p> <p>■授業の到達目標 1. 海外の原著論文を講読し、自己の研究課題に活用できる。 2. (可能な範囲で) 授業計画①～⑪の順に和訳する。 3. 論文の背景、研究方法など論文構成を学ぶ。</p>			
回	授業計画	備考	
1	オリエンテーション ※授業計画について説明を行う。授業資料は本学で準備するが、和訳の準備は各自で行う。		
2	英語論文の抄録・本文の構成① ※タイトル、序章を和訳する。タイトルの意味と、研究目的・研究方法を知る。		
3	英語論文の抄録・本文の構成② ※研究テーマが生まれた国、地域、歴史を知る。地域及び著者の関心の背景を知る。		
4	American Journal of Nursing の購読① ※Introduction 及び Purpose を和訳する。		
5	American Journal of Nursing の購読② ※Background,Using oral sources を和訳する。※学生は予め、予習を行い、発表準備をしておく。		
6	American Journal of Nursing の購読③ ※Background,Using oral sources を和訳する。		
7	American Journal of Nursing の購読④ ※Background,Using oral sources を和訳する。		
8	American Journal of Nursing の購読⑤ ※Background,Using oral sourcesm, Our project began を和訳する。		
9	American Journal of Nursing の購読⑥ ※Background,Using oral sourcesm, Contextual background を和訳する。		
10	American Journal of Nursing の購読⑦ ※Methods;Historical methodology を和訳する。		
11	American Journal of Nursing の購読⑧ Methods;Historical methodology を和訳する。		
12	American Journal of Nursing の購読⑨ Sample,Procedure を和訳する。		
13	American Journal of Nursing の購読⑩ ※Results,Education を和訳する。		
14	American Journal of Nursing の購読⑪ Abstract を和訳する。		
15	各自の研究テーマに関する英語論文のプレゼンテーション 研究方法を自己の研究に関連させて、発表する。	論文の作成と投稿	
<p>■成績評価の方法 平常点 (100%) 授業への参加状況、プレゼンテーションから総合的に評価します。</p> <p>■教科書・テキスト American Journal of Nursing 2015 Aug,p22-32 (本学図書館に所蔵)</p> <p>■参考書等 適宜紹介します。</p> <p>■授業外学習の指示 和訳担当部分は、予習しておいて下さい。</p> <p>■オフィスアワー 授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail 対応します。</p> <p>■担当教員からのメッセージ 事前に配布された資料を文法に注意しながら、読んで下さい。</p> <p>■担当教員の連絡先：isobe-a@seisen.ac.jp</p>			



## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	リーダーシップ論		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	木村知子 南谷志野		
<b>【開催時期】</b> 1年次後期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 必修	<b>【単位数】</b> 1単位
<p>■概要                      リーダーシップを発揮するために必要な理論について現場の実践活動と重ね合わせながら学修する。これらの理論や各自のこれまでの実践例を活用して、リーダーシップとは何か、リーダーに求められる能力とは何か、変革できるリーダーとは、について検証・考察する。                      また、自分自身のリーダーシップ経験の個人ワーク、グループディスカッション、現場管理者との意見交換等を通して、リーダーシップについて考究する。</p> <p>■授業のねらい                      高度化、複雑化する医療の中で、看護マネジメント、看護組織、多職種チームにおける看護のリーダーシップ機能は重要である。看護現場における実践者としてのリーダー的役割を遂行するために、リーダーシップ論を学ぶ必要がある。</p> <p>■授業の到達目標                      ・リーダーシップに関連する理論を理解する。                      ・看護実践現場におけるリーダーシップとマネジメントシップの現状と課題について理解する。                      ・自身のリーダーシップについて考究する。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	組織の中の人間行動	木村知子	
2	リーダーシップ理論の変遷	木村知子	
3.4	リーダーシップに関連する様々な理論 (学生のプレゼンテーション)	木村知子 南谷志野	
5.6	リーダーシップとマネジメント	木村知子	
7.8	自身のリーダーシップのあり方 (学生のプレゼンテーション)	木村知子 南谷志野	
<p>■成績評価の方法                      授業でのディスカッション、プレゼンテーション、レポート課題から総合的に評価する。</p> <p>■教科書・テキスト                      別途授業のなかで指示する。</p> <p>■参考書等                      金井壽宏 リーダーシップ入門 日本経済新聞社                      スティーブンP.ロビンズ 組織行動のマネジメント ダイヤモンド社                      Sally Shaw International Council of Nurses: Nursing Leadership (英語) ペーパーバック                      他適宜紹介する。</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件)                      現在の職位のみにとらわれることのないように幅広くリーダーシップを捉えて、授業に臨んで下さい。</p> <p>■授業外学習の指示                      自身のリーダーシップのあり方を常に考えて、理論立てて準備して下さい。</p> <p>■オフィスアワー                      木曜日 17時以降</p> <p>■担当教員からのメッセージ                      看護だけにとらわれることなく、幅広い知識を求めます。</p> <p>■担当教員の連絡先                      kimura-t@seisen.ac.jp.</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	看護ケア開発特論 I		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	磯邊厚子		
<b>【開催時期】</b> 1年次前期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2単位
<p>■概要 人間の尊厳を守り、生活の質的充足に貢献する看護ケアの視点を教授する。 看護ケア開発を導く経験知や実践知から創造的な看護ケアについて学修する。理論は実践から導き出され、さらに理論は様々な臨床領域での実践にどのように適用されるか、テキストを併用しつつ日頃の実践を意味づける。</p> <p>■授業のねらい 日頃の看護実践を科学的、現象学的に理解を深め、看護とは何かを再認識し、看護ケア開発の実現に役立てる。</p> <p>■授業の到達目標 1. 文献「現象学的人間論と看護」序 人間の体験としての病気～第一章～第十章で提示される課題を読み解く。 2. 看護ケア開発の意義が理解できる。各講義は学生相互の議論を含む。</p>			
回	授業計画	備考	
1	授業の目標と内容、スケジュールについて 授業概要を知る ※現象学に関する文献を調べておく	磯邊厚子	
2	現象学の概念（意義、考え方、定義等） ※現象学とは何か、自分なりに考えておく ※下記テキストを読んでおく	磯邊厚子	
3～6	テキスト 第一章 気づかひの第一義性 第二章 人であるとはどういうことかなぜ哲学か 第三章 ストレスと対処に関する現象学的な観方—ストレスとは何か (外部講師による実践者の講義含む)	磯邊厚子	
7～10	テキスト 第四章 成人の人生諸局面における病気への対処—生涯発達に関する理論 第五章 健康の増進 第六章 症状への対処—人間の生きた証としての症状 第七章 冠状動脈疾患への対処—近代文化への過剰適応	磯邊厚子	
11～13	テキスト 第八章 癌への対処—個人史の役割 第九章 神経系の病気への対処 第十章 看護という仕事への対応—看護実践に固有の知と技能と責任能力の承認	磯邊厚子	
14	文献を読み解いた中から、研究、教育、実践面から看護の独自性と看護の深遠な効果を明らかにする（自由討議）	磯邊厚子	
15	ケア開発に関する現状と方向性について討論し看護についてまとめる 14回で学んだ授業の中から、各々が看護開発案を述べ合う	磯邊厚子	
<p>■成績評価の方法 授業への参加状況及びレポート等を総合的に評価する。</p> <p>■教科書・テキスト P. ベナー&amp;J. ルーベル ベナー/ルーベル 現象学的人間論と看護, 難波卓志訳, 2016 医学書院 ISBN978-4-260-34363-3</p> <p>■参考書等 A. ウィーデンバック 臨床看護の本質 外口玉子 池田明子訳 ISBN4-87474-034-7 21世紀の看護論, 日本看護協会出版会, 東京</p> <p>■履修上の注意点（履修要件） 講義だけでなく、看護実践における問題意識や考え方を、意見やレポートにして発表する機会を設けます。積極的に討論にご参加下さい。</p> <p>■授業外学習の指示 関連する文献検索や資料を調べる等は、図書館、IT等を活用して下さい。</p> <p>■オフィスアワー 授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail で対応します。</p> <p>■担当教員からのメッセージ 授業方法に関する希望やご意見等は、早めにお出し下さい。</p> <p>■担当教員の連絡先 E-mail: isobe-a@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	看護ケア開発特論Ⅱ		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	磯邊厚子		
<b>【開催時期】</b> 1年次後期	<b>【授業形態】</b> 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2単位

**■概要**

看護理論、人間発達論等に基づき、看護実践の現状と看護問題を科学的に検証し、臨床看護、地域・在宅看護に活用できる看護ケアを学修する。

**■授業のねらい**

施設看護や地域・在宅看護における様々な看護現象における課題を、理論的に分析し、検証できる。

**■授業の到達目標**

1. 看護理論、人間発達論等に基づいて看護の現状を分析し、看護ケア開発を検討する。
2. 看護実践において、対象者の生活文化、歴史等の背景も考慮した看護ケアを検討する。

回	授業計画	備考
1	授業の目標、内容とスケジュールについて ※特論Ⅰを復習しておく	磯邊厚子
2～5	人間発達と看護ケアを検討する (①レポートして考察する) ※人間発達とは何か、文献で調べておく	磯邊厚子
6～9	看護実践における個々の生活文化、社会背景を考慮した文献や実践例の看護ケアを検討する (②レポートして発表し、検討する) 人間の発達過程と、文化や風土・看護との関連を検討する ※文化とは何か、調べておく	磯邊厚子
10～12	地域包括ケアの現状及び課題を検討する (③レポートして考察する) 人間発達やケアリングの概念に基づく地域包括ケアを検討する (外部講師による実践者の講義含む)	磯邊厚子
13・14	認知症、難病、ターミナル等の患者が、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域のケアシステムや援助方法の開発について討論する 難病や高齢者の援助を人間発達やケアリングの考え方から検討する (外部講師による実践者の講義含む)	磯邊厚子
15	施設や地域・在宅におけるケアシステムや援助方法の開発についてまとめる 施設⇄地域・在宅を循環する有用なケアを検討する	磯邊厚子

**■成績評価の方法**

授業参加状況、①～③のレポートから包括的に評価する。

**■教科書・テキスト**

佐久川肇編著 (2013: 現象学入門 (対人支援の「意味」をわかりたい人へ), 医学書院, 2013, 東京。

ジーン・ワトソン ワトソン看護論 ヒューマンケアリングの科学 (訳; 川野雅資・長谷川浩 (2005)

服部祥子 生涯人間発達論 - 人間への深い理解と愛情を育むために 医学書院(2010) ISBN978-4-260-01170-9

**■参考書等**

随時提示する。

**■履修上の注意点 (履修要件)**

看護ケア開発特論Ⅰを履修していること。  
図書館を活用し、予習復習をして下さい。

**■オフィスアワー**

授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail で対応します。

**■担当教員からのメッセージ**

何でも、早めにご相談下さい。

**■担当教員の連絡先**

E-mail: isobe-a@seisen.ac.jp

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	看護ケア開発特論演習		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	磯邊厚子		
<b>【開催時期】</b> 1年次後期～2年次前期	<b>【授業形態】</b> 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2単位
<p>■概要</p> <p>医療施設や介護施設、地域・在宅で生活するさまざまな対象者の看護ケアに関する看護の現象を検討し、その改善やケアの質的向上に貢献する看護ケア開発の方向性を学修する。</p> <p>■授業のねらい</p> <p>施設や地域・在宅における看護の現象を明らかにし、その先行研究について調べることができる。</p> <p>■授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の看護ケアに関する課題を基に、先行研究を検索し、系統的に整理できる。</li> <li>2. 先行研究の看護ケアに基づき、自己の研究課題を明確にできる。</li> </ol>			
回	授業計画	備考	
1	授業の目標、内容、方法の説明とスケジュールの確認する ※特論Ⅰ、Ⅱを復讐し、課題を整理しておく	磯邊厚子	
2～8	自己の研究課題について、文献を検索し検討する 文献を整理し、先行研究の流れをまとめる（レポート） ※自己の関心、テーマ、研究課題について文献検索を行っておく	磯邊厚子	
9～13	自己の研究課題について、和文献のみでなく、海外の文献との比較により、日本における看護問題の位置づけや課題解決の方向性を明らかにする また、多様な先行研究から研究の概念枠組みを作成し、新たな自己の看護ケア開発に関する研究テーマを設定する さらに、自己の研究の背景、研究目的と意義、研究方法（用語の定義、研究デザイン、データ収集、分析、倫理的配慮等）を検討する 自己のテーマや関心事から、医療や社会、文化・人間の生命・生活のありようまで知見を拓げ、看護ケアの方向性を睨み、自己の研究テーマを設定することができる（外部講師による実践者の講義含む）	磯邊厚子	
14・15	研究方法について、デザイン発表会で発表する ※自己の研究を他者に説明できる準備を行う	磯邊厚子	
<p>■成績評価の方法</p> <p>授業への参加状況、研究計画発表、レポート等から総合的に評価する。</p> <p>■教科書・テキスト</p> <p>黒田裕子(2012)：看護研究 Step by Step 第4版, 医学書院、東京.</p> <p>■参考書等</p> <p>授業の中で随時配布する。</p> <p>■履修上の注意点（履修要件）</p> <p>看護ケア開発特論Ⅰ及び看護ケア開発特論Ⅱを履修していること。</p> <p>■授業外学習の指示</p> <p>図書館などを利用し、予習復習をして下さい。</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>授業後対応、もしくは学生の都合に合わせて随時 mail で対応します。</p> <p>■担当教員からのメッセージ</p> <p>基盤科目、研究方法論Ⅰ、研究方法論Ⅱで修得した学習内容を活かして下さい。</p> <p>■担当教員の連絡先</p> <p>E-mail : <a href="mailto:isobe-a@seisen.ac.jp">isobe-a@seisen.ac.jp</a></p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	看護教育学特論 I		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	小山敦代 城ヶ端初子 西山ゆかり		
<b>【開催時期】</b> 1 年次前期	<b>【授業形態】</b> 講義	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2 単位
<p><b>■概要</b> 看護専門職としての看護教育制度、看護基礎教育、看護継続教育の概要を理解し、今後の方向性や望ましいあり方について探求する能力を養う。(オムニバス方式) 看護基礎教育の概要を理解し、看護基礎教育のあり方を探求する。 看護教育に関する論文のクリティークや討議を通して看護学教育の課題を探究する。 看護継続教育の現状と課題を把握し対象のニーズを知り、対象にあった看護継続教育のあり方を探求する。 キャリア開発、キャリア開発プログラムについて探求する。</p> <p><b>■授業のねらい</b> 看護専門職としての看護基礎教育・看護継続教育の概要を理解し、我が国における看護学教育の課題と展望を述べることができる。</p> <p><b>■授業の到達目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護専門職としての看護教育制度について理解し述べることができる。</li> <li>2. 看護専門職としての看護基礎教育・看護継続教育の変遷と内容がわかる。</li> <li>3. 看護教育学研究と研究成果に基づく教育の展開について知ることができる。</li> <li>4. 看護教育に関する研究論文のクリティークをとおして、看護教育研究に関心を持つことができる。</li> <li>5. 看護専門職としてのキャリア開発について考えることができる。</li> </ol>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	教育とは 看護とは 看護教育とは	小山敦代	
2	看護学教育と看護教育学	小山敦代	
3	看護教育制度論	小山敦代	
4	看護基礎教育の概要 (1)	小山敦代・西山ゆかり	
5	看護基礎教育の概要 (2)	西山ゆかり・小山敦代	
6	成人の教育の特徴と実際	小山敦代	
7	看護教育に関する研究論文のクリティークと討議	小山敦代・西山ゆかり	
8	看護教育に関する研究論文のクリティークと討議	西山ゆかり・小山敦代	
9	看護継続教育の概要 (1)	城ヶ端初子	
10	看護継続教育の概要 (2)	城ヶ端初子	
11	看護リーダーの人材育成と教育	城ヶ端初子	
12	看護職への教育的キャリア開発	城ヶ端初子	
13	看護教育特論のまとめと評価	小山敦代	
14	看護教育学研究 (質的研究の分析の実際)	外部講師 (舟島なをみ)	
15	院生の看護教育学研究に関するアドバイス	外部講師 (舟島なをみ)	
<p><b>■成績評価の方法・基準</b> 課題レポート 20%、プレゼンテーション 20%、最終レポート 50%、討議への参加度 10%</p> <p><b>■教科書・テキスト</b> 杉森みど里・舟島なをみ著「看護教育学第 6 版」医学書院 2016 城ヶ端初子監修「看護継続教育論」久美出版、2016 他、授業進行に合わせて適宜提案する。</p> <p><b>■参考書等</b> ライダ-島崎玲子・小山敦代・田中幸子編著「看護学概論-看護迫及へのアプローチ」医歯薬出版2018 P.ベナー他著 早野 ZITO 真佐子訳「ナースを育てる」医学書院 2011 池西静江・石束佳子著「看護教育へようこそ」医学書院 2015</p> <p><b>■履修上の注意点 (履修要件)</b> 看護基礎教育、看護継続教育について、主体的な学びの姿勢を履修要件とします。</p> <p><b>■授業外学習の指示</b> 授業ごとに提示する。</p> <p><b>■オフィスアワー</b> その都度提示する</p> <p><b>■担当教員からのメッセージ</b> 社会の変遷と動向を見据え、様々な面から看護専門職としての看護基礎教育・継続教育について、自らのキャリア形成、研究論文クリティークを通して我が国における看護学教育の課題と展望について考えましょう。</p> <p><b>■担当教員の連絡先</b> 小山 敦代 : koyama-a@seisen.ac.jp 城ヶ端初子 : jougah-h@seisen.ac.jp 西山ゆかり : nishiy-y@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	看護教育学特論Ⅱ		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	小山敦代 城ヶ端初子 西山ゆかり		
<b>【開催時期】</b> 1 年次後期	<b>【授業形態】</b> 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2 単位

**■授業の目的**

看護教育学に必要な理論や教授、学習方法及び評価に関する知識を習得し、看護基礎教育や看護継続教育プログラム及び人材育成について探求する能力を養う。(オムニバス方式)

看護基礎教育に必要な学習理論や教育方法について理解し、看護学教育について学修する。(小山敦代・西山ゆかり)

看護継続教育プログラムについて理解し、研修計画の立案、実施・評価するとともに看護のリーダーとしての人材育成に関する方法を学修する。(城ヶ端初子・西山ゆかり)

**■授業の到達目標**

1. 看護学教育と学習理論についてわかり、述べることができる。
2. 看護学教育形態、教育方法、教授方略、教材・教具について理解し、述べることができる。
3. 看護学教育における授業展開を支える理論・知識・倫理を理解し、述べることができる。
4. 看護学実習の特質と展開について考え討議できる。
5. 看護専門職の継続教育について考え討議できる。

番外：看護におけるセルフケアの必要性と教育についてわかり、リラクゼーション法の体験ができる。

回	授業計画	備考 (担当教員)
1	日本看護教育学学会第 29 回学術集会参加	小山敦代・西山ゆかり
2	日本看護教育学学会第 29 回学術集会参加	小山敦代・西山ゆかり
3	日本看護教育学学会学術集会参加の学び共有	小山敦代・西山ゆかり
4	看護教育学研究について	小山敦代・西山ゆかり
5	看護教育制度	小山敦代
6	看護学教育課程	小山敦代
7	看護学教育授業方法と展開について	西山ゆかり・小山敦代
8	看護継続教育論	城ヶ端初子
9	看護継続教育プログラム	城ヶ端初子
10	看護学実習展開	西山ゆかり
11	看護学教育評価	小山敦代・西山ゆかり
12	看護継続教育機関の教育	城ヶ端初子
13	現任教育、院内教育、新人看護師教育	城ヶ端初子
14	看護継続教育に関する研究的取組	西山ゆかり
15	看護継続教育に関する研究的取組	西山ゆかり

**■成績評価の方法・基準**

課題レポート 20%、プレゼンテーション 20%、最終レポート 50%、討論への参加度 10%

**■教科書・テキスト**

杉森みど里・舟島なをみ著「看護教育学 第 6 版」医学書院 2016

日本看護協会「継続教育の基準ver2」2012 厚生労働省：新人看護職員研修ガイドライン【改訂版】2014

看護に活かす基準・指針・ガイドライン集 2016、日本看護協会、2016

城ヶ端初子監修「看護継続教育論」久美出版、2016

**■参考書等**

グレッグ美鈴、池西悦子編著「看護教育学」南江堂 2012

マルカム・ノールズ著/堀薫夫、三輪建二監訳「成人教育の現代的実践 ペタゴジーからアンドラゴジーへ」鳳書房 2002

小坂橋喜久代他著「リラクゼーション法入門」日本看護協会出版会 2013

**■履修上の注意 (履修要件)**

看護教育学特論Ⅰを履修していること

自分の置かれている立場で、看護専門職としての看護基礎教育、看護継続教育についての課題を主体的に考えることを履修要件とする。

**■授業外学習の指示** 授業ごとに提示する。

**■オフィスアワー** 授業終了後、もしくは状況に応じて調整する

**■担当教員からのメッセージ** 看護専門職としての看護基礎教育、看護継続教育についての学びを各々の立場・実践に活かせるように具体化しましょう。

**■担当教員の連絡先** 小山敦代：koyama-a@seisen.ac.jp 城ヶ端初子：jougah-h@seisen.ac.jp

西山ゆかり：nishiy-y@seisen.ac.jp

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	看護教育学特論演習		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	小山敦代 城ヶ端初子 西山ゆかり		
<b>【開催時期】</b> 1 年次後期～2年次前期	<b>【授業形態】</b> 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2単位

**■授業の目的**

看護学教育に関する文献のクリティークや看護基礎教育及び継続教育の展開場面の参加を通して、看護基礎教育と看護継続教育の課題を明確にし、教育計画を立案し、実施・評価できる能力を養う。並びに特別研究の計画書作成を通して研究計画立案能力を培う。(オムニバス方式)

看護基礎教育の関心分野に関する研究論文のクリティーク・討論を通し、研究課題を明確にする。並びに看護基礎教育(1部分)の指導計画立案・実施を体験する。

看護継続教育の関心分野に関する研究論文のクリティーク・討論を通し、研究課題を明確にする。並びに看護継続教育(研修等の1部分)の指導計画立案・実施を体験する。

**■授業の到達目標**

1. 看護学教育の関心分野に関する文献を系統的に検索することができる。
2. 看護学教育関連の文献内容を理解し、概要を報告することができる。
3. 看護学教育関連の文献についてクリティークし、報告することができる。
4. 看護基礎教育における模擬授業(講義・演習・実習)、看護継続教育における模擬研修等の立案・実施を体験する。
5. 学会や看護継続教育における研修会等に参加し、看護学教育について視野を広めることができる。
6. 研究題目に関する研究計画が立案できる。

回	授業計画	備考 (担当教員)
1	看護基礎教育における授業計画案、指導案作成	小山敦代・西山ゆかり
2	看護基礎教育における授業計画案、指導案作成	小山敦代・西山ゆかり
3	模擬授業(または模擬指導)の計画・展開準備	小山敦代・西山ゆかり
4	看護教育学領域の文献クリティークの実践	西山ゆかり・小山敦代
5	看護継続教育(研修)の企画立案・指導案作成	城ヶ端初子・西山ゆかり
6	看護継続教育の企画立案・指導案作成(院内教育)	城ヶ端初子・西山ゆかり
7	研究テーマに関する研究論文のクリティーク	小山・城ヶ端・西山
8	研究テーマに関する研究論文のクリティーク	小山・城ヶ端・西山
9	指導案を用いて模擬授業(模擬指導)を展開、評価	小山・城ヶ端・西山
10	指導案を用いて模擬授業(模擬指導)を展開、評価	小山・城ヶ端・西山
11	研究計画書作成(研究背景・目的・方法・倫理的配慮、計画書作成)	小山・城ヶ端・西山
12	研究計画書作成(研究背景・目的・方法・倫理的配慮、計画書作成)	小山・城ヶ端・西山
13	研究計画書作成(研究背景・目的・方法・倫理的配慮、計画書作成)	小山・城ヶ端・西山
14	研究計画書作成(研究背景・目的・方法・倫理的配慮、計画書作成)	小山・城ヶ端・西山
15	研究計画書作成(デザイン発表に向けて準備)	小山・城ヶ端・西山

**■成績評価の方法・基準**

課題レポート 20%、プレゼンテーション 20%、最終レポート 50%、討論への参加度 10%

**■教科書・テキスト**

杉森みどり・舟島なをみ著：看護教育学、第6版、医学書院、2016  
 舟島なをみ：看護学教育における授業展開、医学書院、2014  
 舟島なをみ：院内教育プログラムの立案・実施・評価、第2版、医学書院 2015  
 舟島なをみ：看護教育学研究、第3版、医学書院、2018  
 城ヶ端初子監修「看護継続教育論」久美出版、2016

**■参考書等**

日本看護協会：継続教育の基準ver2, 2012 厚生労働省：新人看護職員研修ガイドライン【改訂版】2014  
 学会誌：日本看護学教育学会誌、日本看護教育学会誌、日本看護学会論文集(看護教育)  
 定期刊行物：看護教育、Journal of Nursing Education

**■履修上の注意点(履修要件)**

看護教育学特論Ⅰ、看護教育学特論Ⅱを履修していること  
 看護教育に関連する学会または研修会への参加が必要なため、時間割変更の可能性はある。

**■授業外学習の指示** 授業ごとに提示する。

**■オフィスアワー** 授業終了後、もしくは状況に応じて調整する

**■担当教員からのメッセージ**

研究課題を明確にし、研究計画立案ができるよう、主体的・積極的に取り組んでいきましょう。

**■担当教員の連絡先**

小山 敦代：koyama-a@seisen.ac.jp 城ヶ端初子：jougah-h@seisen.ac.jp  
 西山ゆかり：nishiy-y@seisen.ac.jp

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	看護管理学特論 I		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	木村知子 南谷志野		
<b>【開催時期】</b> 1 年次前期	<b>【授業形態】</b> 講義 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2 単位

**■概要**

・看護管理に関する動向と諸理論（関連領域の概念や理論も含む）について概説する。その上で、最近の看護管理の実践に関する研究動向把握し、看護管理のあり方や課題について探究する。

（木村知子）

・質の高い看護実践を提供するために有効な看護管理のシステムづくりについて概説する

（南谷志野）

**■授業のねらい**

看護管理に関する諸理論（関連領域の概念や理論も含む）と看護サービス・マネジメントへの適用については、看護管理をする上で必要である。

管理は職位のみにこだわらずに必要であることから、実践者としての看護管理を探究する。

**■授業の到達目標**

1. 看護管理に必要な基本的な諸理論，管理プロセス，実践システムについて理解できる。
2. 最近の看護管理の実践に関する研究動向を把握できる。
3. 質の高い看護実践を提供するための看護管理のシステムづくり、関係職種との連携等、効果的な看護サービス・マネジメントを理解できる。
4. 看護管理のあり方や課題について探究することができる。

回	授業計画	備考 (担当教員)
1・2	看護管理の動向	木村知子
3・4	文献にみる看護管理（研究の動向）	木村知子
5・6	看護管理に関連する理論	木村知子
7・8	人的資源管理	木村知子 南谷志野
9・10	診療報酬制度概要	木村知子
11～14	看護の質の向上 看護指標	南谷志野 木村知子
15	まとめ	木村知子

**■成績評価の方法**

授業への参加状況、プレゼンテーション、課題レポートから総合的に評価する。

**■教科書・テキスト**

なし

**■参考書等**

随時提示する

**■履修上の注意点（履修要件）**

各自の担当課題をきちんとプレゼンテーションして下さい。

**■授業外学習の指示**

これまでの看護管理の経験を踏まえながら、今後の自身の看護管理のあり方を考えて下さい。

**■オフィスアワー**

木曜日 17 時以降

**■担当教員からのメッセージ**

看護管理は、看護管理者という役職者だけでなく、すべての看護職にとって必要です。

**■担当教員の連絡先**

kimura-t@seisen.ac.jp.



## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	看護管理学特論Ⅱ		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	木村知子 南谷志野		
<b>【開催時期】</b> 1年次後期	<b>【授業形態】</b> 講義 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2単位

**■概要**

より質の高い看護管理に向けて、看護経済・看護経営について概説する。また、看護管理過程を実施することにより、多角的な管理視点を養い、個人の研究と連動させる。

**■授業のねらい**

より質の高い看護管理に向けて、人的資源活用論や、看護サービス提供論に加えて、看護経済・看護経営についての知識と理解が必要である。また、看護管理過程を自施設において展開し、視野を広げて看護管理を探求する。

**■授業の到達目標**

1. 看護経済や看護経営の概念を理解し、看護職がこれらにかかわる方法を修得する。
2. 自施設の分析により看護管理課題を抽出し計画・実践を行う。

回	授業計画	備考 (担当教員)
1	看護経済	木村知子
2	看護経営	木村知子
3・4	自施設の分析と看護管理課題 (BSC を用いて)	木村知子 南谷志野
5・6	経営の基礎 財務表を読む	木村知子 特別講師
7・8	看護が行う経営	木村知子
9・10	経営の基礎 自施設の現状	木村知子
11・12	各自の看護管理課題	木村知子
13・14	看護管理課題 (学生のプレゼンテーション)	木村知子
15	まとめ	木村知子

**■成績評価の方法**

授業参加状況、プレゼンテーション、課題レポートから総合的に評価する。

**■教科書・テキスト**

井部俊子他監修：看護管理学習テキスト第2版 第6巻 日本看護協会出版会 2015

吉田二美子：看護管理者のための実践的マネジメント—看護がリードする経営改善 日本看護協会出版会 2012

**■参考書等**

随時提示する。

**■履修上の注意点 (履修要件)**

看護管理学特論Ⅰを履修しておくこと

**■授業外学習の指示**

自施設において看護管理課題の分析と実践を行います。

**■オフィスアワー**

木曜日 17時以降

**■担当教員からのメッセージ**

看護管理過程の展開をし、それをまとめることは、認定看護管理者にも求められる能力です。

**■担当教員の連絡先**

kimura-t@seisen.ac.jp.

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	看護管理学特論演習		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	木村知子		
<b>【開催時期】</b> 1年次後期～2年次前期	<b>【授業形態】</b> 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2単位

**■概要**

各自の研究テーマに基づいて研究が実際に実施できるよう研究計画立案を行う。

**■授業のねらい**

研究のプロセスを踏まえて、研究テーマの設定から、文献レビュー、研究計画書の作成、研究デザイン発表、倫理審査申請を行う必要がある。これにより、実際の研究が進められる。

**■授業の到達目標**

1. 関連テーマに基づいた文献の精読から文献レビューを行う。
2. 研究の「問い」を明らかにする。
3. 研究計画書が作成できる。
4. 研究デザイン発表ができる。
5. 研究における倫理的配慮を明らかにし、倫理審査申請ができる。

回	授業計画	備考
1～4	テーマに関連する文献精読	
5～6	問いを立てる	
7～9	研究計画書の作成	
10・11	研究デザイン発表	
12	計画書のまとめ	
13～14	研究における倫理的配慮の検討	
15	まとめ	

**■成績評価の方法**

授業への取り組み、発表、計画書、倫理申請書から総合的に評価する。

**■教科書・テキスト**

研究方法論 I II で使用のもの

**■参考書等**

随時提示する。

**■履修上の注意点（履修要件）**

看護管理学特論 I 及び II を履修すること

**■授業外学習の指示**

研究野プロセスにおいて期限が決められています。それに従って進めて下さい。

**■オフィスアワー**

木曜日 17 時以降

**■担当教員からのメッセージ**

助言をうまく活かして、計画的に進めて下さい。

**■担当教員の連絡先**

kimura-t@seisen.ac.jp.

授 業 計 画 (シラバス)			
【 授 業 科 目 名 】	発達支援看護学特論 I		
【 担 当 教 員 名 】	流郷千幸 平田美紀 磯邊厚子		
【開催時期】 1年次前期	【授業形態】 講義	【必修/選択】 選択必修	【単位数】 2単位
<p>■概要  (概要) 子どもと家族及び子どもを取り巻く環境を学修する。  発達理論や愛着理論、家族の発達と機能を学修し、子どもとその家族への支援を考察する。(流郷、平田/12回)  母の栄養不良は低出生体重児を生み、乳幼児期や成人期の健康に反映する。母子の成長発達を支える教育や保健医療制度、生活環境などを考察する。(磯邊/3回)  授業は演習、プレゼンテーション、ディスカッションで行うため、事前学習が重要である。</p> <p>■授業のねらい  子どもや家族を支援するために必要な理論を学び、子どもと家族への支援を考察する。</p> <p>■授業の到達目標  1. 主要な発達理論・家族理論を学修し、看護援助への活用を検討する。  2. 子どもを取り巻く環境を広く理解し、現代の子どもと家族について考察する。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	オリエンテーション	流郷千幸・平田美紀	
2	子ども観の変遷、子どもの権利について考察する ※テーマに関してプレゼンを行いながら子どもの成長発達や理論を学習し、子どもと親への理解を深める	流郷千幸・平田美紀	
3	成長・発達に関する主要な理論を理解する ※テーマに関してプレゼンを行いながら子どもの成長発達や理論を学習し、子どもと親への理解を深める	流郷千幸・平田美紀	
4	家族の発達と機能について理解する ※テーマに関してプレゼンを行いながら子どもの成長発達や理論を学習し、子どもと親への理解を深める	流郷千幸・平田美紀	
5	発達理論①認知発達について理解する ※テーマに関してプレゼンを行いながら子どもの成長発達や理論を学習し、子どもと親への理解を深める	流郷千幸・平田美紀	
6	発達理論②自我発達について理解する ※テーマに関してプレゼンを行いながら子どもの成長発達や理論を学習し、子どもと親への理解を深める	流郷千幸・平田美紀	
7	発達理論③道徳的発達理論について理解する ※テーマに関してプレゼンを行いながら子どもの成長発達や理論を学習し、子どもと親への理解を深める	流郷千幸・平田美紀	
8	発達理論④愛着理論について理解する ※テーマに関してプレゼンを行いながら子どもの成長発達や理論を学習し、子どもと親への理解を深める	流郷千幸・平田美紀	
9	理論の研究への応用①愛着理論を用いた研究 ※理論を用いた研究を紹介し、どのように理論と研究が関連しているのか理解を深める	流郷千幸・平田美紀	
10	理論の研究への応用②育児負担や育児不安に関する研究 ※理論を用いた研究を紹介し、どのように理論と研究が関連しているのか理解を深める	流郷千幸・平田美紀	
11	理論の研究への応用③子どものストレスや自己効力感に関する研究 ※理論を用いた研究を紹介し、どのように理論と研究が関連しているのか理解を深める	流郷千幸・平田美紀	
12	理論の研究への応用④家族の発達や機能に関する研究 ※理論を用いた研究を紹介し、どのように理論と研究が関連しているのか理解を深める	流郷千幸・平田美紀	
13	母子保健に関する国際比較から支援の在り方を検討する ※母子保健に関する課題を多角的に捉え、必要な支援について考察する	磯邊厚子	
14	諸外国における母子の栄養不良の環境要因－居住、労働、家族、経済等を理解する ※母子保健に関する課題を多角的に捉え、必要な支援について考察する	磯邊厚子	
15	母子の健康管理と多文化にみるケアリング行動及び支援を理解する ※母子保健に関する課題を多角的に捉え、必要な支援について考察する	磯邊厚子	
<p>■成績評価の方法  授業への参加状況(発表、資料、討議への参加状況)、レポートから総合的に評価する。</p> <p>■教科書・テキスト 無し。</p> <p>■参考書等 適宜紹介する。</p> <p>■履修上の注意点(履修要件) 無し。</p> <p>■授業外学習の指示 授業ごとに指示する。</p> <p>■オフィスアワー mail で対応する。</p> <p>■担当教員からのメッセージ  子どもや家族を支援するために必要な理論を学び、子どもを家族への支援について考えましょう。</p> <p>■担当教員の連絡先 ryuugo-c@seisen.ac.jp</p>			

授 業 計 画 (シラバス)			
【 授 業 科 目 名 】	発達支援看護学特論Ⅱ		
【 担 当 教 員 名 】	流郷千幸 平田美紀		
【開催時期】 1年次後期	【授業形態】 演習	【必修/選択】 選択必修	【単位数】 2単位
<p>■概要 (概要) 医療を受ける子どもや障害をもつ子どもの権利について、フィールドワークを行いながら、子どもと家族への支援を考察する。 授業は主にフィールドワークを通して行う。</p> <p>■授業のねらい 子どもの権利を理解し、必要な支援について考察する。</p> <p>■授業の到達目標 1. プレパレーションの概念を理解し、多職種協働プレパレーションについて具体的な支援を検討する。 2. 障害をもつ子どもと家族への支援について、現状を把握し、課題を検討する。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	医療を受ける子どもの権利とは ※子どもの権利、医療を受ける子どもの権利について討議する	流郷千幸・平田美紀	
2	プレパレーションとは ※子どもの権利、医療を受ける子どもの権利について討議する	流郷千幸・平田美紀	
3	プレパレーションの実際 (プレパレーション検討会参加)	流郷千幸・平田美紀	
4	※臨床の場で行われているプレパレーション場面への参加などを通して、プレパレーションとは何かを明確にし、現状と課題を考察する		
5	プレパレーションの実際 (小児保健医療センター)	流郷千幸・平田美紀	
6	※臨床の場で行われているプレパレーション場面への参加などを通して、プレパレーションとは何かを明確にし、現状と課題を考察する		
7	多職種協働プレパレーションについて検討する①②	流郷千幸・平田美紀	
8	※臨床の場で行われているプレパレーション場面への参加などを通して、プレパレーションとは何かを明確にし、現状と課題を考察する		
9	障害児支援の実際 (特別支援学校)	流郷千幸・平田美紀	
10	※障害児支援が行われている場に参加し、出生後から学童期までどのように障害児支援が行われているか理解し、現状と課題を考察する		
11	障害児支援の実際 (NICU)	流郷千幸・平田美紀	
12	※障害児支援が行われている場に参加し、出生後から学童期までどのように障害児支援が行われているか理解し、現状と課題を考察する		
13	障害児支援の実際 (ディサービスプリモ)	流郷千幸・平田美紀	
14	※障害児支援が行われている場に参加し、出生後から学童期までどのように障害児支援が行われているか理解し、現状と課題を考察する		
15	まとめ ※フィールドワークからの学びをプレゼンする	流郷千幸・平田美紀	
<p>■成績評価の方法 授業への参加状況 (発表、資料、討議への参加状況)、レポートから総合的に評価する。</p> <p>■教科書・テキスト 無し。</p> <p>■参考書等 適宜紹介する。</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件) 発達支援看護学特論Ⅰを履修していること。</p> <p>■授業外学習の指示 授業ごとに指示する。</p> <p>■オフィスアワー mail に対応する。</p> <p>■担当教員からのメッセージ 医療を受ける子どもの権利や、障害をもつ子どもの権利について、広く考察しましょう。</p> <p>■担当教員の連絡先 ryuugo-c@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	発達支援看護学特論演習		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	流郷千幸 平田美紀		
<b>【開催時期】</b> 2年次前期	<b>【授業形態】</b> 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2単位
<p>■概要            発達支援看護学研究を進めるための研究課題を明確にする。研究テーマに関する文献検討を行い、研究目的に応じた研究方法を検討し、研究計画書を作成する。さらに、研究倫理審査申請について学修する。</p> <p>■授業のねらい            修士論文の計画書を作成する。            授業はディスカッションを行いながらすすめる。</p> <p>■授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関連テーマに基づいた文献の精読から文献レビューを行う。</li> <li>2. 研究の「問い」を明らかにする。</li> <li>3. 研究計画書を作成する。</li> <li>4. 研究における倫理的配慮を明らかにする。</li> </ol>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	テーマに関連する文献精読 ※テーマに関連する文献のクリティークを行いながら、自身の研究目的、方法を明確にする	流郷千幸・平田美紀	
2			
3			
4			
5	問いを立てる ※研究の問いを明確にし、ディスカッションをしながら計画書を作成していく	流郷千幸	
6			
7	研究計画書の作成 ※研究の問いを明確にし、ディスカッションをしながら計画書を作成していく	流郷千幸	
8			
9			
10			
11			
12	研究計画書プレゼンテーション ※研究の問いを明確にし、ディスカッションをしながら計画書を作成していく	流郷千幸	
13	研究における倫理的配慮の検討（倫理審査申請手続き） ※研究の問いを明確にし、ディスカッションをしながら計画書を作成していく	流郷千幸	
14	研究計画書の修正 ※研究の問いを明確にし、ディスカッションをしながら計画書を作成していく	流郷千幸	
15	研究計画書の修正・デザイン発表 ※研究の問いを明確にし、ディスカッションをしながら計画書を作成していく	流郷千幸	
<p>■成績評価の方法            授業への参加状況（発表、資料、討議への参加状況）、レポートから総合的に評価する。</p> <p>■教科書・テキスト 無し。</p> <p>■参考書等 適宜紹介する。</p> <p>■履修上の注意点（履修要件）            研究方法論Ⅰ・Ⅱ及び発達支援看護学特論Ⅰを履修していること</p> <p>■授業外学習の指示 授業ごとに指示する。</p> <p>■オフィスアワー Mail に対応する。</p> <p>■担当教員からのメッセージ            クリティークを継続しながら、修士論文の計画書を仕上げてください。</p> <p>■担当教員の連絡先            流郷千幸：ryuugo-c@seisen.ac.jp            平田美紀：hirata-m@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

【 授 業 科 目 名 】	生活支援看護学特論 I		
【 担 当 教 員 名 】	坂田直美 緒方昭子 安田千寿 中島真由美		
【開催時期】 1年次前期	【授業形態】 講義	【必修/選択】 選択必修	【単位数】 2単位
<p>■概要 成人期・老年期のライフステージの対象特性や急性期・慢性期などの状態特性に焦点を当て、理論的根拠と実践事例の検討により、対象のニーズに即した生活支援看護について探究する。</p> <p>■授業のねらい 授業の主要概念である“生活”“支援”“看護”について様々な視点から考察し、成人・高齢者を対象とした生活支援看護の基本的考え方や看護の可能性について、理論的根拠とともに探究する能力を養う。</p> <p>■授業の到達目標 1. “生活”“支援”という基本概念について広い視野から考察し、看護にとっての“生活支援”とは何かについて理論的根拠と実践事例を用いて説明できる。 2. 成人・高齢者の対象特性から導き出されたニーズとそれに即した生活支援看護の方向性と可能性について、理論的根拠と実践事例を用いて説明できる。 3. 当該授業を通して学んだことを基に、成人・高齢者を対象とした生活支援看護に関する実践的研究課題について自分の考えを述べるができる。</p>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	授業のガイダンス (授業目標と内容、スケジュールについて)	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
2・3	さまざまな分野における“生活”や“支援”に関する概念規定について調べ、看護における生活支援とは何かを理論的根拠と実践事例を用いて考察し、レポートにまとめる。(レポートI-1)	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
4・5	レポート1でまとめたものをプレゼンテーションし、看護にとっての“生活支援”とは何かについてディスカッションする。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
6・7	成人・高齢者の対象特性から導き出されたニーズとそれに即した生活支援看護の方向性と可能性について、理論的根拠と実践事例を用いて考察し、レポート (レポートI-2) にまとめる。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
8・9	レポート2でまとめたものをプレゼンテーションし、成人・高齢者のニーズに即した生活支援看護の方向性と可能性についてディスカッションする。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
10・11	前回のディスカッションで明らかになった学習課題について再検討し、レポート (レポートI-3) にまとめる。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
12・13	レポート3にまとめたものをプレゼンテーションし、授業の到達目標1・2の達成状況の確認と補完を行う。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
14・15	学習目標3についてレポートにまとめ (レポートI-4)、プレゼンテーションする。授業評価	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
<p>■成績評価の方法 レポート (60点)、プレゼンテーション (20点)、ディスカッション (20点) で評価する。</p> <p>■教科書・テキスト なし</p> <p>■参考書等 適宜紹介する。</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件) なし</p> <p>■授業外学習の指示 適宜指示する</p> <p>■オフィスアワー 火曜日 15時～16時 坂田研究室・緒方研究室 メールにて事前に予約をしてください</p> <p>■担当教員からのメッセージ 生活支援という言葉は看護にとって当たり前に使っていますが、本当のところどの程度理解しているのだろうか、看護にとっての生活支援とは何かという本質的な問いを繰り返しながら学びを深め、理論的根拠をもって、自分の言葉で生活支援看護が説明できるよう頑張ってください。 担当教員は全員実務経験有</p> <p>■担当教員の連絡先 sakata-n@seisen.ac.jp                      ogata-a@seisen.ac.jp yasuda-c@seisen.ac.jp                      nakaji-m@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	生活支援看護学特論Ⅱ		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	坂田直美 緒方昭子 安田千寿 中島真由美		
<b>【開催時期】</b> 1年次後期	<b>【授業形態】</b> 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2単位
<p>■概要 成人期・老年期の人々の健康生活を支援する政策や社会システムの変遷を概観し、成人や高齢者の療養生活の場の特性とそこで求められる生活支援看護について考察する。さらに、切れ目のない生活支援看護を実現するためのケアマネジメントのあり方や課題を、理論的根拠と実践事例を通して探究する。</p> <p>■授業のねらい 成人・高齢者を対象とした健康生活支援施策を歴史的視点から捉え、これからの生活支援看護の目指す方向性や課題を見出す能力を養う。さらに、ケアマネジメントの視点から生活支援看護のあり方や課題を探究する能力を養う。</p> <p>■授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人・高齢者の健康生活を支える社会システムの変遷と生活支援看護との関係性について説明できる。</li> <li>2. 成人・高齢者の療養生活の場の特性と求められる生活支援看護について、理論的根拠と実践事例を用いて説明できる。</li> <li>3. ケアマネジメントの視点から実践事例を解き、理論的根拠とともに切れ目のない看護の実現に向けた生活支援看護のあり方や課題について説明できる。</li> <li>4. 当該授業で学んだことを基に、生活支援看護に関する実践的研究課題について自分の考えを述べることができる。</li> </ol>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	授業のガイダンス (授業目標と内容、スケジュールについて)	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
2・3	成人・高齢者の健康生活を支える政策や社会システムの変遷について調べ、生活支援看護との関係性について考察したものをレポート (レポートⅡ-1) にまとめる。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
4・5	レポートⅡ-1でまとめたものをプレゼンテーションし、生活支援看護との関係性についてディスカッションする。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
6・7	成人・高齢者の療養生活の場の特性と求められる生活支援看護について、理論的根拠と実践事例を用いて考察し、レポート (Ⅱ-2) にまとめる。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
8・9	レポートⅡ-2でまとめたものをプレゼンテーションし、療養生活の場の特性と求められる生活支援看護についてディスカッションする。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
10・11	ケアマネジメントの視点から実践事例を解き、理論的根拠とともに切れ目のない看護の実現に向けた生活支援看護のあり方と課題について考察し、レポート (レポートⅡ-3) にまとめる。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
12・13	レポートⅡ-3でまとめたものをプレゼンテーションし、ケアマネジメントの視点から生活支援看護のあり方や課題についてディスカッションする。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
14	生活支援看護における実践的研究としての自らの研究テーマの位置づけと、研究の意義についてディスカッションを通して検討する。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
15	まとめと授業評価	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
<p>■成績評価の方法 レポート (60点)、プレゼンテーション (20点)、ディスカッション (20点) で評価する。</p> <p>■教科書・テキスト なし</p> <p>■参考書等 適宜紹介する。</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件) 生活支援看護学特論Ⅰを履修していること。</p> <p>■授業外学習の指示 適宜指示する。</p> <p>■オフィスアワー メールにて事前に予約をしてください。</p> <p>■担当教員からのメッセージ 当授業でのケアマネジメントは、介護保険下でのケアマネジャーが行うケアマネジメントではなく、広義のケアマネジメントです。これに関しては1回目のガイダンスで説明します。また、当授業は様々な視点から生活支援看護を捉え、今後の看護開発につなげられることを目指しておりますので、柔軟な思考で臨んでください。</p> <p>■担当教員の連絡先 sakata-n@seisen.ac.jp    ogata-s@seisen.ac.jp    yasuda-c@seisen.ac.jp    nakaji-m@seisen.ac.jp</p>			

授 業 計 画 (シラバス)			
【 授 業 科 目 名 】	生活支援看護学特論演習		
【 担 当 教 員 名 】	坂田直美 緒方昭子 安田千寿 中島真由美		
【開催時期】1 年次後期～2年次前期	【授業形態】演習	【必修/選択】選択必修	【単位数】2単位
<p>■概要 各自の研究テーマに基づき、文献レビューを行い、リサーチクエッションと研究の意義・目的の明確化、研究方法の吟味、倫理的配慮について考察する。</p> <p>■授業のねらい 研究計画書を作成する能力を養う。</p> <p>■授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマに関連する文献を精読し、自らの研究テーマとの関連性を説明できる。</li> <li>2. 研究テーマ、研究目的と意義について説明できる。</li> <li>3. 研究目的に応じた研究方法を吟味探索し、方法の妥当性・信頼性・実現可能性について説明できる。</li> <li>4. 研究に必要な倫理的配慮が説明できる。</li> </ol>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	授業のガイダンス (授業目標と内容、スケジュールについて)	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
2・3	研究テーマに関連する文献を精読し、研究テーマとの関連性について考察し、レポート (レポートⅢ-1) にまとめる。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
4・5	レポートⅢ-1 でまとめたものをプレゼンテーションし、文献の読み取り、文献の使い方、研究テーマとの関連性についてディスカッションし、学習課題を明確にする。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
6・7	前回の授業で課題になった点を修正しプレゼンテーションする。その後、研究テーマ、文献レビュー、研究目的と意義、新規性等についてディスカッションを通して検討する。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
8・9	研究目的を達成するための方法について、関連する文献を精読し、研究方法 (研究デザイン、研究対象の選定方法、データ収集方法、データ分析方法) 等について検討し、学習課題を明確化する。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
10・11	前回の授業で課題となった点を修正し、プレゼンテーションする。それを受けて研究方法の妥当性、信頼性、実現可能性を検討する。さらに、倫理的配慮についても必要かつ十分かを検討する。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
12・13	研究計画書の作成	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
14	研究計画書を文章化し、プレゼンテーションする。	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
15	まとめと授業評価	坂田直美・緒方昭子 安田千寿・中島真由美	
<p>■成績評価の方法 レポート (10 点)、プレゼンテーション (40 点)、研究計画書の作成 (50 点) で評価する。</p> <p>■教科書・テキスト 無し</p> <p>■参考書等 適宜紹介する。</p> <p>■履修上の注意点 (履修要件) 生活支援看護学特論 I を履修していること。</p> <p>■授業外学習の指示 適宜指示する。</p> <p>■オフィスアワー メールにて予約してください。</p> <p>■担当教員からのメッセージ 修士論文の研究計画書作成を目標にしております。計画的に進められるよう課題に取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>■担当教員の連絡先 sakata-n@seisen.ac.jp ogata-s@seisen.ac.jp yasuda-c@seisen.ac.jp nakaji-m@seisen.ac.jp</p>			



授 業 計 画 (シラバス)			
【 授 業 科 目 名 】	地域・精神保健看護学特論 I		
【 担 当 教 員 名 】	間文彦 安孫子尚子		
【開催時期】 1年次前期	【授業形態】 講義	【必修/選択】 選択必修	【単位数】 2単位
<p>■概要</p> <p>地域・精神看護の基本的概念や諸理論について理解を深める。地域・精神保健看護活動における社会資源のネットワーク化、システム化に向けての多職種や住民組織との連携協働に関する現状を分析し、地域・精神保健看護活動の将来展望について学修する。(オムニバス方式)</p> <p>(間文彦)</p> <p>精神保健看護活動における社会資源のネットワーク化、システム化に向けての多職種との連携協働、住民組織の育成に関する現状を分析し、地域・精神保健看護活動の将来展望について学修する。</p> <p>(安孫子尚子)</p> <p>地域・精神保健看護活動の基本的概念や諸理論について理解を深める。</p> <p>■授業のねらい</p> <p>地域・精神保健看護学領域の実態把握、課題分析能力を高めるための理論や研究の動向を教授する。</p> <p>■授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・精神保健看護学の基本概念・諸理論について理解する。</li> <li>2. 地域・精神保健看護活動の計画策定から評価に至るプロセスを理解する。</li> </ol>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	オリエンテーション：地域・精神保健看護活動の実践活動に取り組んできたプロセスの共有化と研究課題に関する方向性を検討する。	間文彦	
2・3	地域・精神保健看護の諸理論や研究について最近の動向を学習し、地域・精神保健看護学の理念と目的を理解する。	安孫子尚子	
4・5	発達心理学、コミュニティ心理学に関する理論や研究について学習し、ライフサイクルに合わせた精神保健看護活動を検討する。	特別講師 鹿嶋達哉・間文彦	
6・7	精神障害者の治療・処遇を歴史的背景から捉え今後の課題に向けた援助方法について理解する。	間文彦	
8・9	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の制度及び政策論・精神障害者の権利擁護を理解する。	間文彦・安孫子尚子	
10・11	精神分析的知見から精神障害者を理解する。	間文彦	
12・13	精神障害者の地域移行に関する課題と精神保健看護活動を理解する。	間文彦	
14・15	地域・精神保健看護活動の課題の今後のあり方について総括する。	間文彦	
<p>■成績評価の方法</p> <p>授業への参加状況（資料作成、発表等）20%、プレゼンテーション 30%、課題レポート 50%</p> <p>■教科書・テキスト</p> <p>無し。</p> <p>■参考書等</p> <p>小林芳郎「精神保健の理論と実際」保育出版          呉秀三、堅田五郎「精神病者の私宅監置の実況」医学書院          中井久夫、山口直彦「看護のための精神医学」医学書院</p> <p>■履修上の注意点（履修要件）</p> <p>特になし。</p> <p>■授業外学習の指示</p> <p>授業時に指示する。</p> <p>■オフィスアワー</p> <p>水曜日、木曜日</p> <p>■担当教員からのメッセージ</p> <p>問題意識をもって、主体的に参加する。</p> <p>■担当教員の連絡先</p> <p>間：hazama-f@seisen.ac.jp 安孫子：abiko-s@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	地域・精神保健看護学特論Ⅱ		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	間文彦、安孫子尚子、西垣里志		
<b>【開催時期】</b> 1年次後期	<b>【授業形態】</b> 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2単位

**■概要**

地域・精神保健看護活動の対象、活動の場、活動方法の特性について分析する。地域ニーズに応じた具体的な看護活動計画の策定、実施、評価を学修する。(オムニバス方式及び共同方式) (間文彦)

精神疾患をもつ対象への看護活動や看護の特性について、具体的な活動事例をもとに学修する。(安孫子尚子)

公衆衛生看護活動のPDCAサイクルと活動展開について高齢者を対象とした具体的な活動事例をもとに学修する。

(西垣里志)

在宅精神障害者の家族支援についての具体的な活動事例をもとに学修する。

**■授業のねらい**

地域・精神保健看護学の実態把握、課題分析能力を高めるために理論を教授し、具体的な活動事例をもとに、実践における活用方法を探求する。

**■授業の到達目標**

1. 地域・精神保健看護活動の特性を理解する。
2. 地域・精神保健看護活動の専門性と具体的な活動の進め方を理解する。

回	授業計画	備考 (担当教員)
1	オリエンテーション: 地域・精神保健看護の活動事例を基に学習するためのゼミナールの進め方について説明する。	間文彦・安孫子尚子
2・3	アルコール依存症患者および違法薬物依存症患者の現状と課題を踏まえ、依存症患者の予防活動について理解する。	間文彦
4	自殺対策について多職種、多分野連携での支援ネットワークシステムについて理解する。	間文彦・安孫子尚子
5・6	精神障害者の社会復帰活動、在宅精神障害者の家族支援、多職種チームについての連携を理解する。	西垣里志
7・8	ライフサイクルに合わせた保健事業の計画、実施、評価	安孫子尚子
9・10	母子保健、成人、高齢者保健のメンタルヘルス対策の計画、実施、評価についてPDCAを用いて理解する。	佐藤裕見子・間文彦
11・12	地域包括ケアに関する理論と活動について理解する。	佐藤裕見子・間文彦
13・14	リエゾン精神看護師活動の現状と課題について理解し、精神保健看護活動の役割・専門性について統括する。	(寺岡征太郎)・間文彦
15	特論Ⅱのまとめ	間文彦

**■成績評価の方法**

授業への参加状況(資料作成、発表等) 20%、プレゼンテーション 30%、課題レポート 50%

**■教科書・テキスト**

無し

**■参考書等**

田中美恵子「精神障害者の地域支援ネットワークと看護支援」医歯薬出版

大原健士郎、宮里勝政「アルコール・薬物の依存症」医学書院

野末聖香「リエゾン精神看護」医歯薬出版

**■履修上の注意点(履修要件)**

精神看護学特論Ⅰを修得していること。

**■授業外学習の指示**

授業時に指示する

**■オフィスアワー**

水曜日、木曜日

**■担当教員からのメッセージ**

問題意識をもって、主体的に参加する。

**■担当教員の連絡先** 間文彦: hazama-f@seisen.ac.jp 安孫子尚子: abiko-s@seisen.ac.jp 西垣里志: nishig-s@seisen.ac.jp

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	地域・精神保健看護学特論演習		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	間文彦、安孫子尚子、西垣里志		
<b>【開催時期】</b> 1年次後期～2年次前期	<b>【授業形態】</b> 演習	<b>【必修/選択】</b> 選択必修	<b>【単位数】</b> 2単位
<p>■概要            地域・精神保健看護学研究を進めるための文献検討、研究方法の検討、研究計画書の作成、プレゼンテーション、研究倫理審査申請について学修する。(オムニバス方式)            (間文彦)            地域・精神保健看護学研究の研究課題の立て方について学修する。            地域・精神保健看護学研究方法として文献検討、研究計画書の作成、プレゼンテーション方法について学修する。</p> <p>■授業のねらい            研究計画書・倫理審査申請書を作成するための具体的な演習を行う。</p> <p>■授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・精神保健看護学研究のプロセスを理解する。</li> <li>2. 自己の研究テーマを決定、研究計画書作成、デザイン発表でのプレゼンテーションができる。</li> <li>3. 研究倫理審査の申請ができる。</li> </ol>			
回	授業計画	備考 (担当教員)	
1	ガイダンス：演習の進め方、課題を説明する。	間文彦、安孫子尚子、 西垣里志	
2～5	背景・先行研究・目的のプレゼンテーション	間文彦、安孫子尚子、 西垣里志	
6～10	研究方法論のプレゼンテーション	間文彦、安孫子尚子、 西垣里志	
11・12	倫理審査申請書のプレゼンテーション	間文彦、安孫子尚子、 西垣里志	
13・14	研究デザイン発表プレゼンテーション	間文彦、安孫子尚子、 西垣里志	
15	倫理審査申請書プレゼンテーション	間文彦、安孫子尚子、 西垣里志	
<p>■成績評価の方法            授業への参加状況（資料作成、発表等）20%、プレゼンテーション 30%、課題レポート 50%</p> <p>■教科書・テキスト            無し</p> <p>■参考書等            適宜紹介する。</p> <p>■履修上の注意点（履修要件）            精神看護学特論Ⅰを修得していること。</p> <p>■授業外学習の指示            授業時に指示する。</p> <p>■オフィスアワー            水曜日、木曜日</p> <p>■担当教員からのメッセージ            問題意識をもって、主体的に参加する。</p> <p>■担当教員の連絡先            間： hazama-f@seisen.ac.jp</p>			

## 授 業 計 画 (シラバス)

<b>【 授 業 科 目 名 】</b>	特別研究		
<b>【 担 当 教 員 名 】</b>	小山敦代、坂田直美、城ヶ端初子、流郷千幸、間文彦、木村知子、磯邊厚子 緒方昭子、西山ゆかり、安田千寿、西垣里志、平田美紀、安孫子尚子、中島真由美		
<b>【開催時期】</b> 2年次通年	<b>【授業形態】</b> 演習	<b>【必修/選択】</b> 必修	<b>【単位数】</b> 8単位
<p>■概要 各専門領域において、研究課題に沿って、研究計画を立案し研究を進める。研究計画を発表し、必要に応じ研究デザインの見直しを行う。最終的に修士論文としてまとめ、研究成果の発表会を行う。</p> <p>■授業のねらい 必要な研究指導を受けて、研究過程を推進し、修士論文として、その研究成果を提出し、発表することができる。</p> <p>■授業の到達目標 1. 文献の精読、研究計画の作成、データの収集・分析、論文作成までの一連の過程を行うことができる。 2. 各自の研究課題についてプレゼンテーションができる。</p>			
回	授業計画	備考	
	<p>以下の1～9を教授し、論文を完成させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関連文献の収集および精読する。</li> <li>2. 自己の関心課題に焦点を当て、研究課題を決定する。</li> <li>3. 研究計画を作成し、その内容をプレゼンテーションする。</li> <li>4. 倫理委員会に研究計画書を提出し、承認を得る。</li> <li>5. 研究計画書に基づき、データ収集、分析、考察を行う。</li> <li>6. 修士論文を作成する。</li> <li>7. 修士論文及び要旨を研究科長に提出する。</li> <li>8. 論文審査（主査1名、副査2名）及び口述試験を受ける。</li> <li>9. 修士論文を発表する。</li> </ol>		
<p>■成績評価の方法 研究への取り組み状況、研究計画書、論文審査などから総合的に評価する。</p> <p>■教科書・テキスト 無し。</p> <p>■参考書等 適宜紹介する。</p> <p>■履修上の注意点（履修要件） 特論Ⅰ・Ⅱ、演習を履修していること。 研究の実施に当たっては、倫理委員会の承認を得て実施すること。</p> <p>■授業外学習の指示 必要時、担当教員が指示する。</p> <p>■オフィスアワー 各領域の特論を参照</p> <p>■担当教員からのメッセージ 各領域の特論を参照</p> <p>■担当教員の連絡先 各領域の特論を参照</p>			